

K-569

米沢市埋蔵文化財報告書第76集

# 米沢城南三の丸跡

## 発掘調査報告書

2002

米沢市教育委員会

米沢市埋蔵文化財報告書第76集

# 米沢城南三の丸跡

## 発掘調査報告書

2002

米沢市教育委員会

## 序 文

本報告書は、米沢市教育委員会が平成11・12年度に実施した「米沢城南三の丸跡」発掘調査の成果をまとめたものです。

米沢城跡は、過去7回の発掘調査を実施しており、大規模な二の丸堀跡（障子堀）や寺院跡が確認されており、米沢城の成立を考える上で大変注目される資料が検出しています。

今回の2カ年にわたる調査成果として、米沢城二の丸堀跡が、絵図面とは異なる形態で確認されたことが上げられます。このような成果を得られ、無事調査が終了できましたことは関係各位のご理解とご協力の賜と存じます。

最後になりましたが、調査に際しご指導を賜りました文化庁、山形県教育庁社会教育課文化財保護室をはじめ、地権者各位、地元の皆様に対し、心からお礼申し上げます。

平成14年3月

米沢市教育委員会

教育長 佐藤政一

## 例　　言

- 1 本報告書は、平成11・12年度に実施した、「米沢城南三の丸跡」発掘調査報告書である。
- 2 調査は米沢市教育委員会が実施した。
- 3 調査体制は下記のとおりである。

調査主体　米沢市教育委員会

平成11年度

|       |       |                |       |       |
|-------|-------|----------------|-------|-------|
| 調査総括  | 小杉　基  | (文化課長)         |       |       |
| 調査担当  | 手塚　孝  | (文化課文化財係主任)    |       |       |
| 調査主任  | 月山　隆弘 | (文化課文化財係主任)    |       |       |
| 調査補助員 | 黒沢　富雄 |                |       |       |
| 調査参加者 | 青木多恵子 | 阿部　祐一          | 五十嵐三郎 | 井上　吉栄 |
|       | 小島　鍛  | 小嶋　俊一          | 佐藤　一夫 | 佐藤みよの |
|       | 高橋　幸吉 | 高橋　正子          | 竹田　三男 | 田村　和男 |
|       | 中村　潤  | 中村　正弘          | 丸山　淳子 | 宮田　志保 |
| 事務局長  | 小林　伸一 | (文化課長補佐兼文化財係長) |       |       |
| 事務局   | 岡本　善彦 | (文化課文化財係長)     |       |       |
|       | 渡邊　絃子 | (文化課文化財係主査)    |       |       |
| 調査指導  | 文化庁   | 山形県教育庁文化財課     |       |       |

平成12年度

|       |       |                |       |       |
|-------|-------|----------------|-------|-------|
| 調査総括  | 鈴木たみ子 | (文化課長)         |       |       |
| 調査担当  | 手塚　孝  | (文化課文化財係主任)    |       |       |
| 調査主任  | 月山　隆弘 | (文化課文化財係主任)    |       |       |
| 調査補助員 | 中村　潤  | 水科　友恵          |       |       |
| 調査参加者 | 伊藤　博美 | 江袋　吉男          | 遠藤　富男 | 桑原あゆみ |
|       | 加藤美貴子 | 黒田よし子          | 今野　周蔵 | 色摩　三郎 |
|       | 小島　鍛  | 近野　慶子          | 佐藤　秀子 | 清水　弘文 |
|       | 高橋　俊助 | 高橋　宏夫          | 高橋　正子 | 竹田　章紀 |
|       | 永井　庄田 | 長澤　朋人          | 吉田喜代志 | 渡部　明美 |
| 事務局長  | 小林　伸一 | (文化課長補佐兼文化財係長) |       |       |
| 事務局   | 渡邊　絃子 | (文化課文化財係主査)    |       |       |
| 調査指導  | 文化庁   | 山形県教育庁文化財課     |       |       |

- 4 挿図の縮尺は、各挿図毎にスケールで示した。挿図内の図化及び記号は、KY-堀・溝跡、DY-土壤、TY-柱穴、OY-桶埋設遺構、NN-池状遺構、SX-不明遺構を示す。遺

構番号については、平成11年度と平成12年度それぞれ1から付した。表内の数字はcmを示す。

写真図版の縮尺は適宜行っている。

- 5 米沢城下絵図については、米沢市立図書館所蔵を活用した。
- 6 出土遺物は、米沢市埋蔵文化財資料室に保管している。
- 7 本書の作成は、月山隆弘が担当し、菊地政信が補佐した。全体については手塚 孝が総括した。
- 8 調査にあたって、関係各位のご協力を得た。記して感謝申し上げます。

# 本文目次

|        |           |    |
|--------|-----------|----|
| I      | 米沢城の概要    |    |
| 1      | 遺跡の概要     | 1  |
| 2      | 米沢城の歴史的背景 | 1  |
| 3      | 調査の経過     | 6  |
| II     | 検出遺構      |    |
| 平成11年度 |           |    |
| 1      | 堀・溝跡      | 7  |
| 2      | 土塁        | 7  |
| 3      | 池状遺構      | 8  |
| 4      | 桶埋設遺構     | 8  |
| 5      | 柱穴        | 8  |
| 平成12年度 |           |    |
| 1      | 溝跡        | 8  |
| 2      | 土塁        | 15 |
| 3      | 不明遺構      | 15 |
| 4      | 柱穴        | 15 |
| III    | 出土遺物      |    |
| 平成11年度 |           |    |
|        |           | 18 |
| 平成12年度 |           |    |
|        |           | 45 |
| IV     | まとめ       | 61 |

## 報告書抄録

# 附表目次

|     |                 |    |      |                  |    |
|-----|-----------------|----|------|------------------|----|
| 表-1 | 土器類観察表(1999)    | 56 | 表-9  | 木製品観察表(1999)     | 58 |
| 表-2 | 瓦器質土器観察表(1999)  | 56 | 表-10 | 石製品観察表(1999)     | 59 |
| 表-3 | 陶磁器観察表(1999)    | 56 | 表-11 | 鉄製品(古銭)観察表(1999) | 59 |
| 表-4 | 染付陶磁器観察表(1999)  | 57 | 表-12 | 土器類観察表(2000)     | 59 |
| 表-5 | その他陶磁器観察表(1999) | 57 | 表-13 | 瓦器質土器観察表(2000)   | 59 |
| 表-6 | 火具観察表(1999)     | 57 | 表-14 | 陶磁器観察表(2000)     | 60 |
| 表-7 | 埴堀観察表(1999)     | 58 | 表-15 | 染付陶磁器観察表(2000)   | 60 |
| 表-8 | かわらけ観察表(1999)   | 58 |      |                  |    |

## 挿図目次

|      |              |    |      |             |    |
|------|--------------|----|------|-------------|----|
| 第1図  | 米沢城跡位置図      | 2  | 第23図 | 出土遺物実測図(12) | 32 |
| 第2図  | 米沢城南三の丸跡調査区  | 4  | 第24図 | 出土遺物実測図(13) | 33 |
| 第3図  | 御城下絵図        | 5  | 第25図 | 出土遺物実測図(14) | 34 |
| 第4図  | 調査区平面図(1)    | 9  | 第26図 | 出土遺物実測図(15) | 35 |
| 第5図  | 調査区平面図(2)    | 10 | 第27図 | 出土遺物実測図(16) | 36 |
| 第6図  | 調査区平面図(3)    | 11 | 第28図 | 出土遺物実測図(17) | 37 |
| 第7図  | K Y 1 堀跡断面図  | 12 | 第29図 | 出土遺物実測図(18) | 38 |
| 第8図  | 北壁土層断面図(1)   | 13 | 第30図 | 出土遺物実測図(19) | 39 |
| 第9図  | 北壁土層断面図(2)   | 14 | 第31図 | 出土遺物実測図(20) | 40 |
| 第10図 | A・B調査区平面図(1) | 16 | 第32図 | 出土遺物実測図(21) | 41 |
| 第11図 | C調査区平面図(2)   | 17 | 第33図 | 出土遺物実測図(22) | 42 |
| 第12図 | 出土遺物実測図(1)   | 21 | 第34図 | 出土遺物実測図(23) | 43 |
| 第13図 | 出土遺物実測図(2)   | 22 | 第35図 | 出土古錢拓影図(24) | 44 |
| 第14図 | 出土遺物実測図(3)   | 23 | 第36図 | 出土遺物実測図(25) | 47 |
| 第15図 | 出土遺物実測図(4)   | 24 | 第37図 | 出土遺物実測図(26) | 48 |
| 第16図 | 出土遺物実測図(5)   | 25 | 第38図 | 出土遺物実測図(27) | 49 |
| 第17図 | 出土遺物実測図(6)   | 26 | 第39図 | 出土遺物実測図(28) | 50 |
| 第18図 | 出土遺物実測図(7)   | 27 | 第40図 | 出土遺物実測図(29) | 51 |
| 第19図 | 出土遺物実測図(8)   | 28 | 第41図 | 出土遺物実測図(30) | 52 |
| 第20図 | 出土遺物実測図(9)   | 29 | 第42図 | 出土遺物実測図(31) | 53 |
| 第21図 | 出土遺物実測図(10)  | 30 | 第43図 | 出土遺物実測図(32) | 54 |
| 第22図 | 出土遺物実測図(11)  | 31 | 第44図 | 出土遺物実測図(33) | 55 |

## 図版目次

|      |         |       |          |
|------|---------|-------|----------|
| 第一図版 | 検出遺構    | 第九図版  | 出土遺物(7)  |
| 第二図版 | 検出遺構他   | 第一〇図版 | 出土遺物(8)  |
| 第三図版 | 出土遺物(1) | 第一一図版 | 出土遺物(9)  |
| 第四図版 | 出土遺物(2) | 第一二図版 | 出土遺物(10) |
| 第五図版 | 出土遺物(3) | 第一三図版 | 出土遺物(11) |
| 第六図版 | 出土遺物(4) | 第一四図版 | 出土遺物(12) |
| 第七図版 | 出土遺物(5) | 第一五図版 | 出土遺物(13) |
| 第八図版 | 出土遺物(6) |       |          |

# I 米沢城の概要

## 1 遺跡の概要

米沢城跡は、本丸・二の丸と三の丸の一部を含めた南北約560m、東西約600mの336,000m<sup>2</sup>の範囲を遺跡として登録している。米沢城に関する調査は、これまでにほとんど調査例がなかつたが、昭和61年に初めて宅地造成に係る発掘調査の第1次調査を実施し、中世の遺構を検出している。その後、平成元年には、ふるさとづくり特別対策事業－松ヶ岬公園整備工事に伴う石垣の積み替え作業中に堀の側面より多量の杭列が発見されたことから、工事を中止して遺構確認を前提とした第2次調査を実施した。杭群は、城の侵入を防備する乱杭であることが判り、米沢城跡の築城の重要な手掛を示すものとして注目を集めた。翌年の平成2年には乱杭の分布状況を把握するために本丸全体を対象とした第3次調査を実施している。

平成3年度に米沢城史苑建設に伴う第4次調査、同年には公衆便所新築工事に伴う第5次調査を実施した。平成10年度には第6次調査として、米沢市上杉博物館・県置賜文化施設建設に伴い、県立蔵文化財センターと合同で実施し、平成11年度には県道猪苗代・南原線に伴う第7次調査等で、所謂上杉氏の「米沢城」以前に成立した中世の遺構群が多量に確認され、米沢城の成立を考える上で注目される資料が検出されている。今回の報告書は、第8・9次調査として実施した成果をまとめたものである。

## 2 米沢城の構造的背景

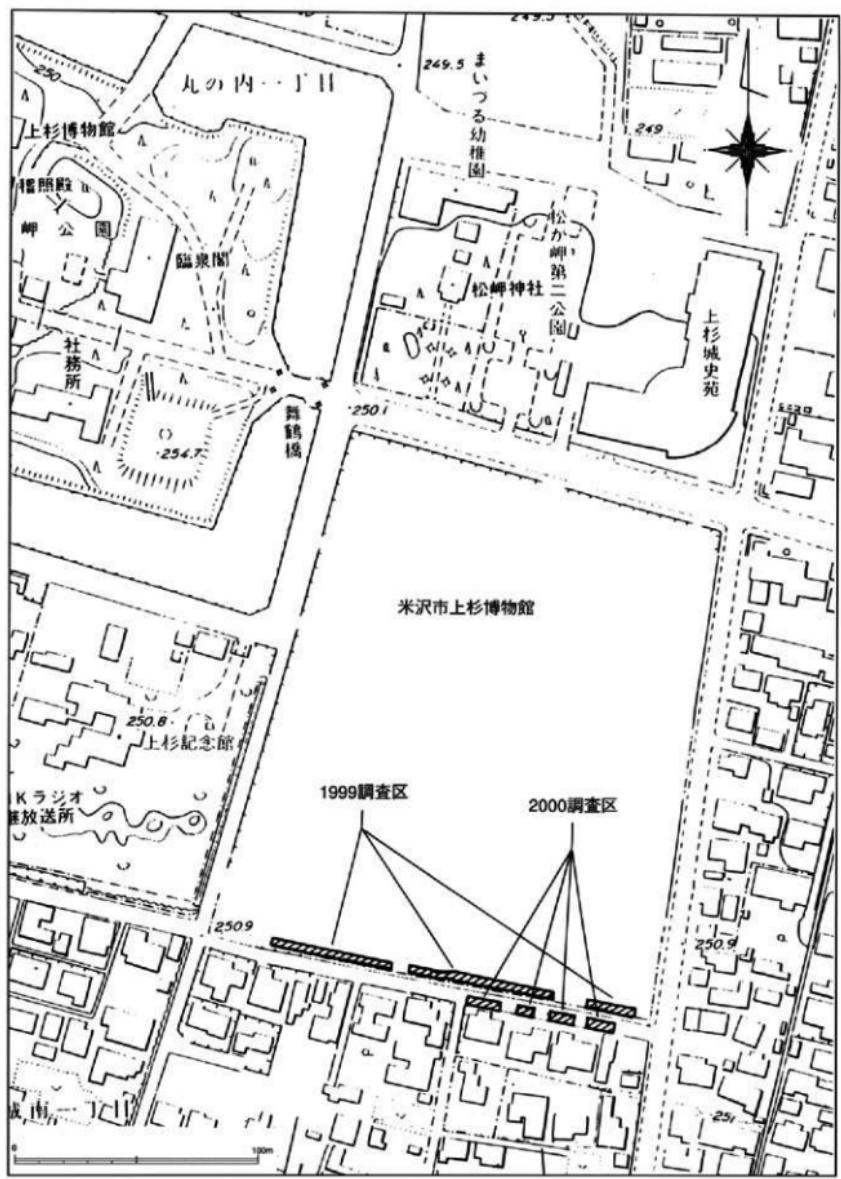
米沢城主城郭を、「伊達輝宗日記」(伊達家文書)、「伊達天正日記」などから、天正2年(1574)ころから天正末期にかけての構造を見れば、永禄13年の中野常陸の乱で城下のはほとんどが一度焼失したが、本丸の大手門付近でも戦いがあったようで天正2年の輝宗日記には、本丸の鷹屋(主殿)や南門の建て替え記事が見られることから、あるいは城郭にも戦いによる損害があったことも予想される。

城郭の概観は、「伊達天正日記」に「北条へ管大炊助、小島右衛門御官代二被罷越候而、とうそく人うち被参候、御帰二ほりたて川橋本にてくひ被懸御目候」との記事が見られる。北条庄(現在の南陽市)は北方にあり、そこで打ち取った盜賊の首を政宗に披露した「堀立川橋本」は米沢城主城郭北方に位置したと思われ、この堀立川は米沢藩政期から現在の堀立川とほぼ同じ位置にあったと考えられている。堀立川の名から見てもこの川は、伊達時代に米沢城主城郭の西側と北方の外堀として掘り立てたもので、それが上杉時代も受け継がれたものであるといわれている。また、米沢城主城郭の東側は松川(最上川)で、その支流が外堀を構成したのも上杉時代と同じと考えられている。

米沢城主城郭は東館・西館・御館(本丸)などの曲輪から構成されていたが、天正12年(1584)12月、隠居していた輝宗は伊達氏当主として初めて正月を迎える政宗に書き送った自筆の覚書「伊達輝宗正月行事」の中で「東より館へ」と記し、翌年館山に移るまでの間暫し東館に移住していた。その後、東館には政宗生母が住み「御東様」と呼ばれた。「伊達天正日記」に「御ひか



第1図 米沢城跡位置図



第2図 米沢城南三の丸跡調査区

し御堀端はたにてかけの馬めせられ候也、又雲雀毛ノ御馬はなれて申候て御西館之内へ逃入申候」とあり、東館、西館が米沢城主城郭を構成していたこともわかる。政宗が家督を譲る前「伊達西御殿」と呼ばれており、そのころ政宗が西館に住んでいたと考えられている。「伊達輝宗正月行事」で宛名に書かれた「館」とは正宗を指し、米沢城本丸のことをいう。本丸は「本城」とも呼ばれ、政宗は天正12年の冬に西館から移り「屋形様」、「御館」とも呼ばれていた。

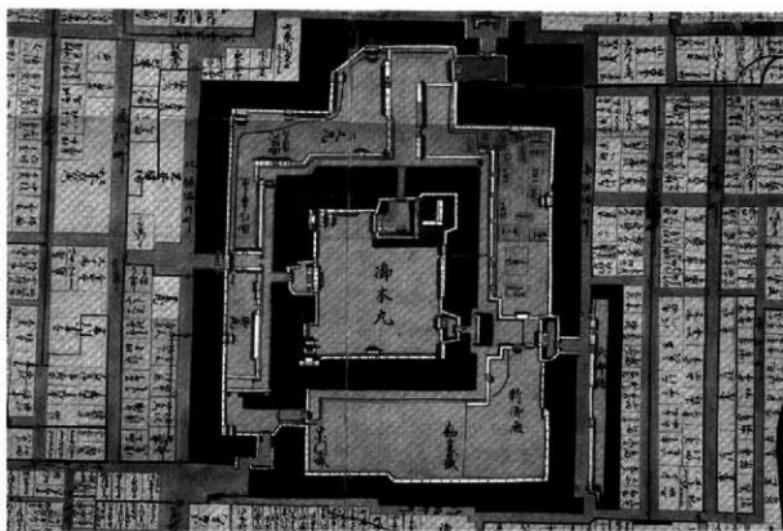
本丸の構造は、大手門・北門・搦手（西門）があり、本丸の周りには水堀と芝生を張って固められた敷の広くない土壘があった。大手門は、「たかやの地わり候、大てのにかいへあかり…」とあり、新築工事の始まった鷹屋が見渡せる大手門は二階造りの楼門であったと考えられている。北門は「幕方御北門之わきにて齋つらせられ候」、「御北御門之筑地御らんせられ候」とあり、北門は水堀があり土壘に繋がっていた。

南門は「南のかふきもんたて候」とあり、冠木門で天正2年に新築された。搦手は「伊達輝宗正月行事」に「おほてからめてのやうしん」とあり、城の正面、大手に対して搦手は裏側をさし、大手門は東に向いていたことから、搦手は西門付近と考えられている。

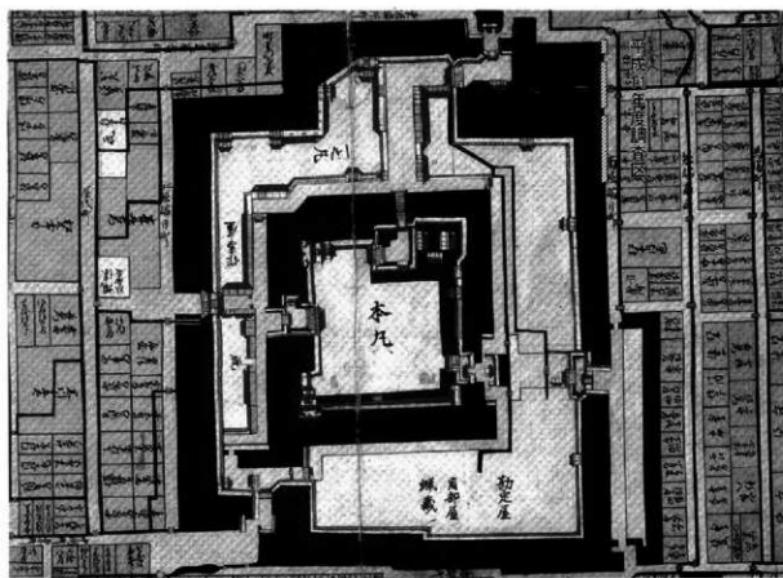
本丸内の建物には、鷹屋があり伊達氏当主の日常生活に関わる機能や、家臣との対面などより私的機能に限られていた。亭は、庭園に隣接した独立の建物であるが、北側で鷹屋と棟統きで、集会所的な開放性の強いものであった。懸作は本丸の庭園池「泉水」に臨んで建てられ、笹板葺きの、障子窓があった。懸作では、「おとなしき」衆に食事を振るまい、双六・乱舞・囃子・太鼓などで遊ぶ風流な場所であった。他に厩などがあり、下級家臣の謁見に用いられたと考えられている。このように米沢城は、表向きに公式な場と、内向の私的な場とに区分されており、居館としての形態を整えていたが、鷹屋、厩の用途にみられるように、形式化されない比較的の自由なあり方であったことが伺われる。以上、米沢市史から引用。

また、城下の拡張工事は、慶長13年（1608）城郭増築と共に着手、翌年更に大規模に行われた。慶長13年、二の丸の小城を三の丸に拡大した時点で、従来二の丸の周辺にあった町屋を外濠の外に移し、その跡に家臣の屋敷を割り出した。侍屋敷の割替は慶長14年、直江兼続の指図により、平林正恒を奉行として実施された。その工事は三郡から夫役を徵し、東は福田から西は館山まで、南は七軒町から北は土橋まで作業を行い、土地を平坦にしてその土を低所に運んだ。その侍屋敷に含まれるに至ったのである。大別して大・中身の武士は三の丸に支配され、小身のものは郭外に置かれ、その多くは城西に面して配置されていた。以上であるが、参考のため現在知られている米沢城に関する絵図面の主なものを列挙すれば次の様になる。

- |                |             |              |             |
|----------------|-------------|--------------|-------------|
| No 1 『御城下絵図』   | 承応2年頃（1653） | No 2 『御城下絵図』 | 元禄7年（1694）  |
| No 3 『御城下町割絵図』 | 享保7年（1722）  | No 4 『御城下絵図』 | 享保10年（1725） |
| No 5 『米沢御城下絵図』 | 明和6年（1769）  | No 6 『御城下絵図』 | 明和6年（1769）  |
| No 7 『御城下絵図』   | 文化8年（1825）  |              |             |



▲明和6年



(市立米沢図書館蔵)

第3図 御城下絵図

### 3 調査の経過

今回の調査は市道拡幅工事に伴う緊急発掘調査で、調査期間は平成11年度が8月23日～10月29日、平成12年度が7月23日～8月11日である。調査箇所は、平成11年度は現米沢市上杉博物館北側を東西に走る北側の歩道直下、平成12年度はその道路の南側に位置する。

平成11年度の調査区範囲には石塔等の構築物があったことから、調査区は1本のトレントレーナーではできず3本とし、一単位を8mとしてグリット杭を設定する。西側よりA～G区、H～P区、Q～T区と呼称した。トレントレーナーは幅5m、長さ約140m、調査面積約700m<sup>2</sup>である。

8月23日から3日間で、約1mの表土剥離を終了した。8月24日～31日で1回目の面精査を行ったところ、A～K区付近までの北壁側に、一直線状に整然と並ぶ杭列が50cm間隔で約65m確認された。この杭列は二の丸堀跡の外側縁辺部に、土留め用として打ち込まれたものであることが判った。また、A～I区は一辺2m程の方形の近代の構築物で一部が攪乱されていた。K～P区までは茶褐色粘土質シルトの安定した地山層で、Q～T区の地山層上部は若干攪乱していた。

9月1日からKY1を中心とした遺構の掘り下げを行い、9月29日からは平面図、断面図等作成、適宜写真撮影して10月29日に調査を終了とした。

土層の堆積状況(KY1北壁)は全体的に、I層が砂を含む整地層(約50cm)、II層は炭殻の整地層(30～50cm)、III・IV層が有機物を多量含む堆積層(30～50cm)、V・VI層が茶褐色及び灰褐色粘土質シルトの堆積層であった。

平成12年度の調査区範囲には、水道管が東西に埋設している部分であることが判っていたため、幅2mの試掘トレントレーナーを設定した。その結果、調査予定地の西側の半分は、地山層の攪乱が著しいことから、調査区範囲から除外し東側半分を調査区とした。調査区内は、一単位を8mとしたが、攪乱部分を除いたため4本のトレントレーナーとなり、西側からA～Dトレントレーナーと呼称した。トレントレーナーは幅4m、長さ約45m、調査面積約180m<sup>2</sup>である。

調査はA～D区の順に、1トレントレーナーづつ実施した。7月24日にA区の表土剥離を開始し、27日に全ての調査を終了した。27日からB区、8月1日からC区、7日からD区を実施し、8月11日に全ての調査区を終了した。A～D区の調査区中央部には東西方向に掘られた水道管が埋設している。

土層の堆積状況は、平成11年度調査区南壁面とはほぼ同様である。

## II 検出遺構

2カ年の調査で検出された遺構には、堀跡・溝跡（K Y）、土壤（D Y）、柱穴（T Y）、池状遺構（N N）、桶埋設遺構（O N）、不明遺構（S X）等がある。以下、検出された主な遺構について2年に分けて列記する。

平成11年度

### 1 堀跡・溝跡

K Y 1は、調査区A～K区付近までの北壁側に確認された二の丸堀跡の外側縁辺部にあたる。確認長、幅約1.5m、長さ約65m、深さ0.7～1.2mを測る。この堀跡には一直線状に整然と並ぶ杭列が約50cm 間隔で、またK区のコーナー部では小規模な杭が接近し、二重三重に打ち込まれて確認された。杭の打ち込まれた深さは確認長で約1.2mあり、堀跡上部の杭列外側には、丸太を横位に構築している箇所も認められた。杭は直径20cm前後の丸太及び丸太材を半截したもの用いており、下部は40cm程度尖頭状に削り、面取りしているものもある。また、杭の樹種は松か松系と考えられる。二の丸堀跡の外側縁辺部に、土止め用として打ち込まれたものであると判断される。

今回の調査区を現存する絵図面と照合すると、検出された二の丸堀跡はA～K区付近までは一直線状を呈し絵図と同様であるが、K区で確認された堀跡は東側には延びず、北側に曲がるコーナー部分が確認された。これに関しては後述する。

今回の調査では出土遺物の殆んどがこの堀跡からであり、堀上部層からガラス製品、中央部から下部にかけては、陶磁器・木製品・木椀等が出土している。

K Y 2は、N調査区の南壁から北壁に南北方向に確認された。確認長、幅約1.5m、長さ4m、深さ30cm前後を測る。掘り方は緩やかで、底部はほぼ平坦である。中央付近に丸木杭が5本確認されたが、近代に打ち込まれたものと考えられる。出土遺物は陶磁器・ガラス製品等であることから、近世以降の遺構と判断される。

K Y 4は、B～E調査区のK Y 1に平行して東西方向に確認された。確認長、幅約1.5m、長さ25m、深さ30cm前後を測る。掘り方は垂直で、底部はほぼ平坦である。東側のD～E調査区に角材が3本確認されたが、ボルト等を設置する穴が認められることからアンカー状の構築物を近代に打ち近だものと考えられる。出土遺物は陶磁器・ガラス製品等であることから、近世以降の遺構と判断される。

### 2 土壤

D Y 6は、L調査区の北壁に確認された。平面形は不正形を呈し、確認長、径2.2～2.8m、深さ80cmを測る。掘り方は南側が緩やか、北側が垂直に近く、底部はほぼ平坦である。掘り方内部の南側とその南側に丸木杭が4本確認されるが、近代に打ち込まれたものである。出土遺物は陶磁器・ガラス製品等であることから、近世以降の遺構と判断される。

D Y 7は、L・M調査区の北側に確認された。平面形は不正方形を呈し、確認長、径1.6～

1.8m、深さ50cmを測る。掘り方は東・西側が緩やか、南・北側が垂直に近い。底部はほぼ平坦である。掘り方中央部に丸木杭が2本確認されるが、近代に廃棄されたものである。出土遺物は陶磁器・ガラス製品等であり、近世以降の遺構と判断される。

D Y 9は、K調査区の北壁に確認された。平面形は不正橢円形を呈し、確認長、径1.2~1.5m、深さ40cmを測る。掘り方は緩やかで、底部はほぼ平坦である。出土遺物は陶磁器等であることから、近世以降の遺構と判断される。

D Y 15は、Q・R調査区の南壁側に確認された。平面形は不正形を呈し、確認長、径1.1~1.4m、深さ35cmを測る。掘り方は緩やかで、底部はほぼ平坦である。N N50から延びるK Y 3と重複しており、遺構の内部及び外南側には細身の杭が十数本打ち込まれて確認しているが、出土遺物はなく近世以降の遺構と判断される。

### 3 池状遺構

N N50は、S・T調査区に確認された。平面形は西側で半円形を呈し、確認長、径約4m、深さ約50cmを測る。掘り方は垂直に近く、底部は西側はほぼ平坦で、東側は凹凸がある。池西側と南側の縁には径10cmの丸木杭が打ち込まれており、また西側では細身の丸太杭を絡める状態で横位に構築している。北壁面には、出水口と推定される小溝が確認されており、南壁には西側に延びQ区で北側に曲がるK Y 3が確認されている。

出土遺物は少ないが、陶磁器・木挽等があり近世以降の遺構と判断される。

### 4 桶埋設遺構

桶状遺構は2基確認している。O N12は、I調査区K Y 1堀跡の上部(IV層)に確認された。平面形は円形を呈し、確認長、径1.2m、深さ44cmを測る。掘り方は不明。底部は平坦である。東北側に桶材を一部確認している。出土遺物はなく、近世以降に設置されたものと判断される。O N13は、N調査区のVI層に確認された。平面形は円形を呈し、確認長、径0.7cm、深さ48cmを測る。掘り方は不明。底部は平坦である。北側に桶材をほぼ半分確認している。出土遺物はなく、O N12同様近世以降に設置されたものと判断される。

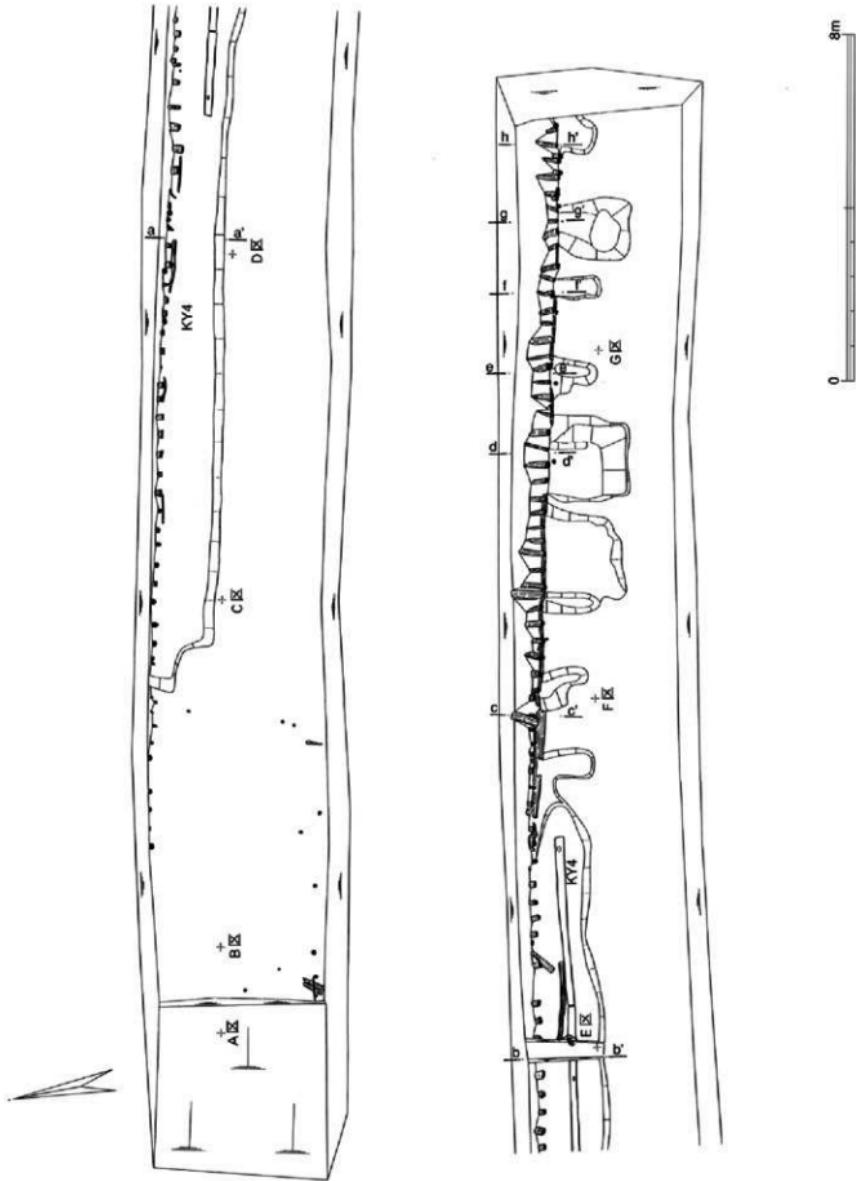
### 5 柱穴

今回の調査で確認された柱穴の規模は、径20~56cm、深さ18~48cmを測る。掘り方は垂直に掘り込んでおり、底部はほぼ平坦であった。十数基確認されているが、二の丸堀跡に隣接していることや、調査区が狭いこともあり柱穴で建物を構成するには至らなかった。検出された柱穴は全て近世以降に位置づけられる。

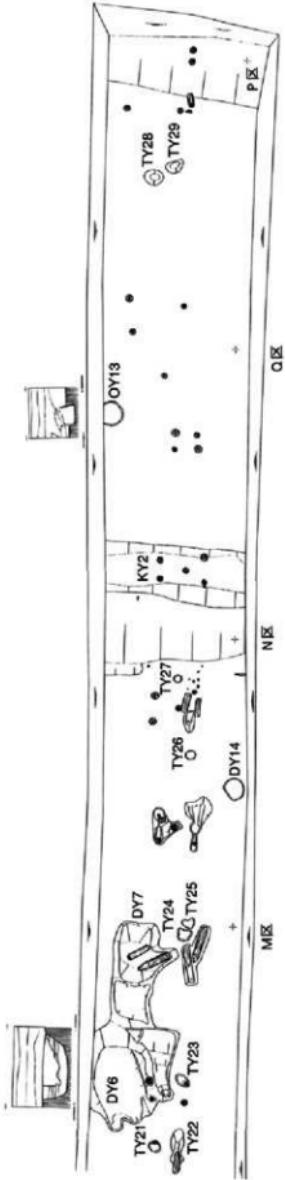
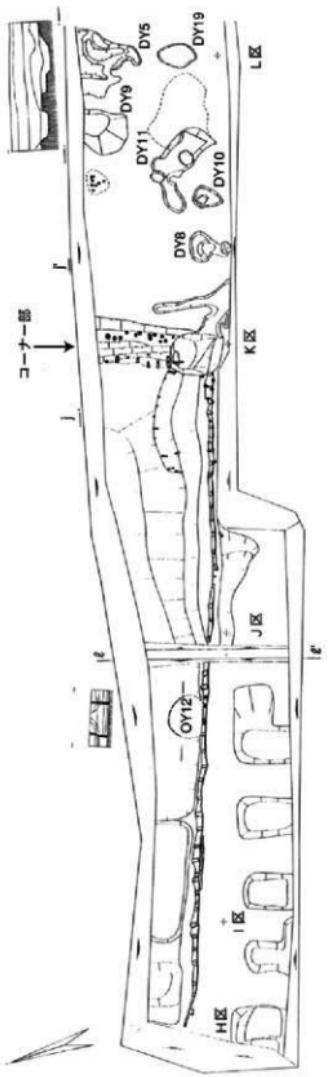
## 平成12年度

### 1 溝跡

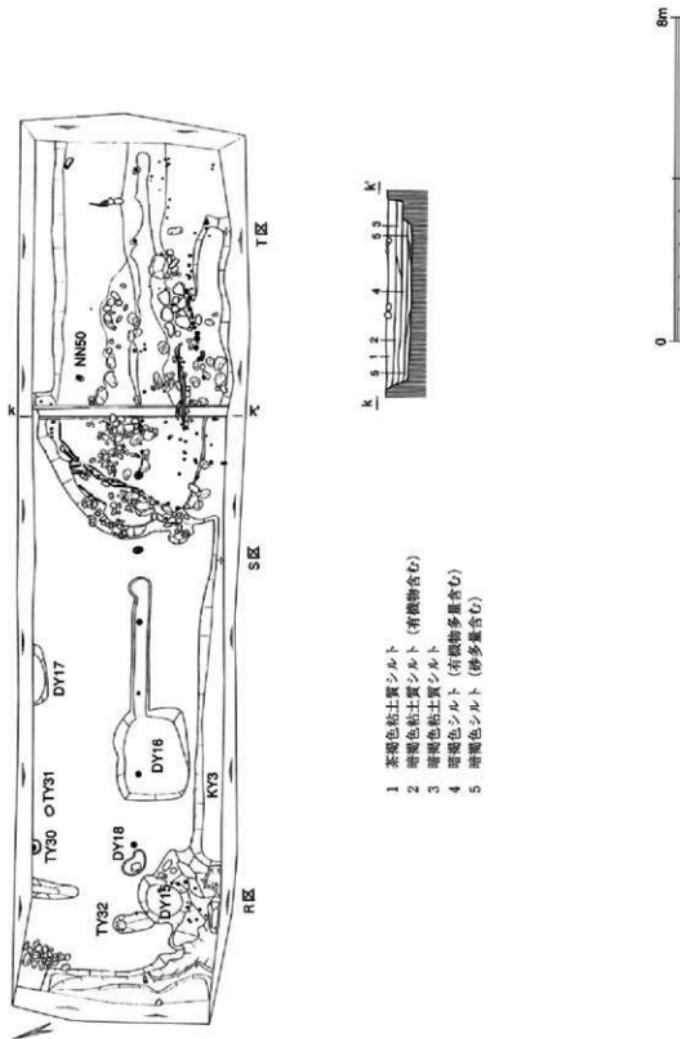
K Y 1は、A調査区の南側に確認された。東側の南壁で切れることから南側にカーブする。確認長、幅32~76cm、長さ12m、深さ27~31cmを測る。掘り方は全体的に垂直に掘られているが、西側は緩やかな部分もある。底部はほぼ平坦である。T Y 15に切られている。出土遺物は



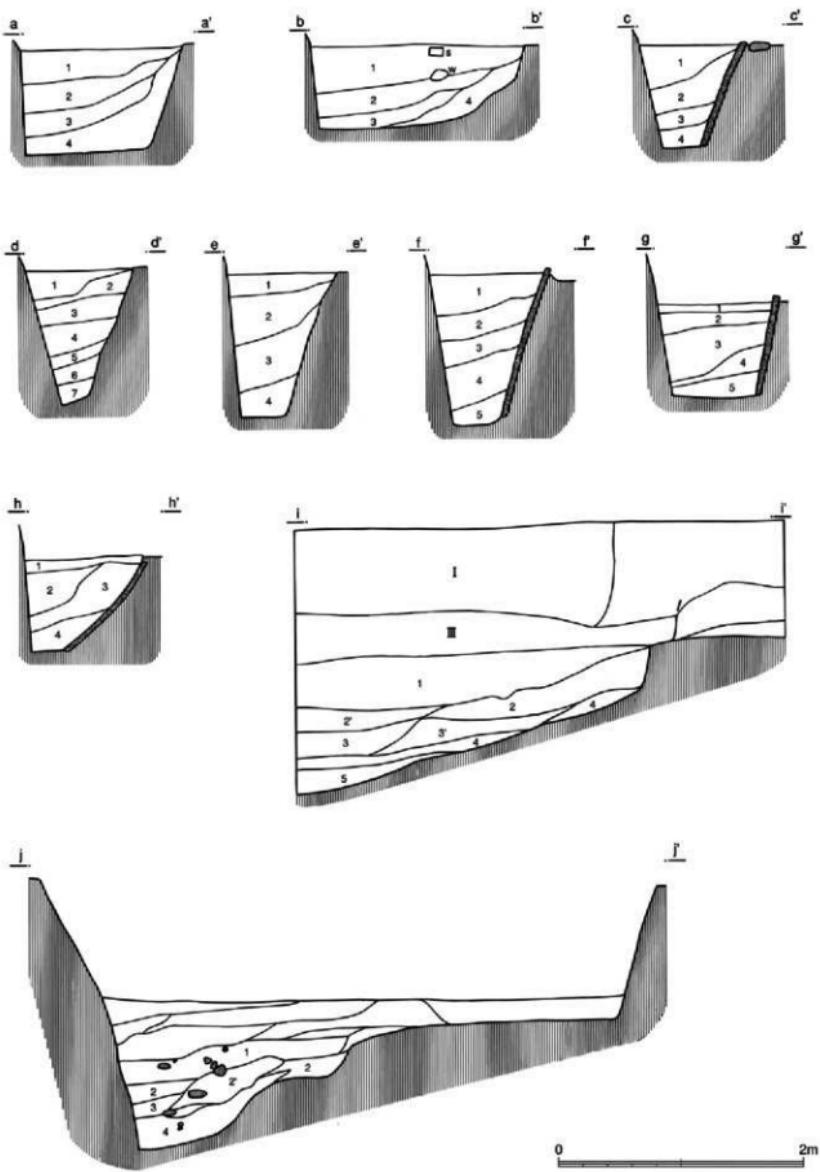
第4図 調査区平面図(1)



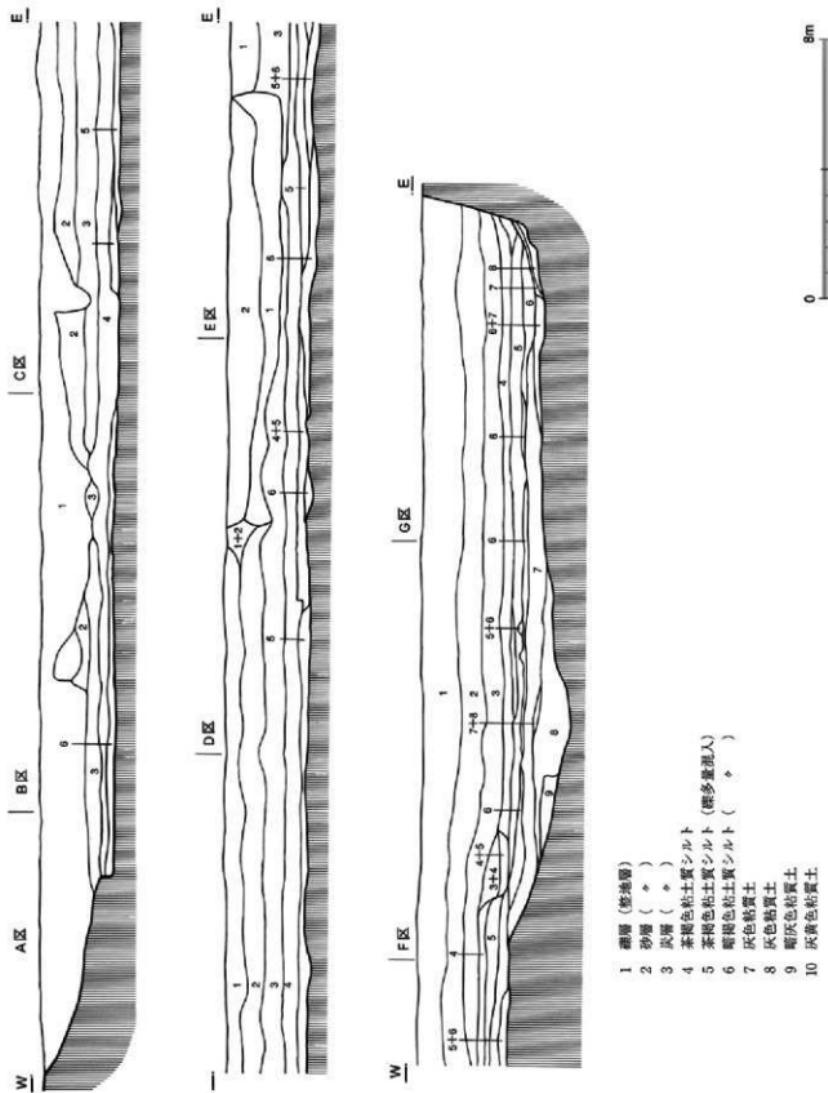
第5図 調査区平面図（2）



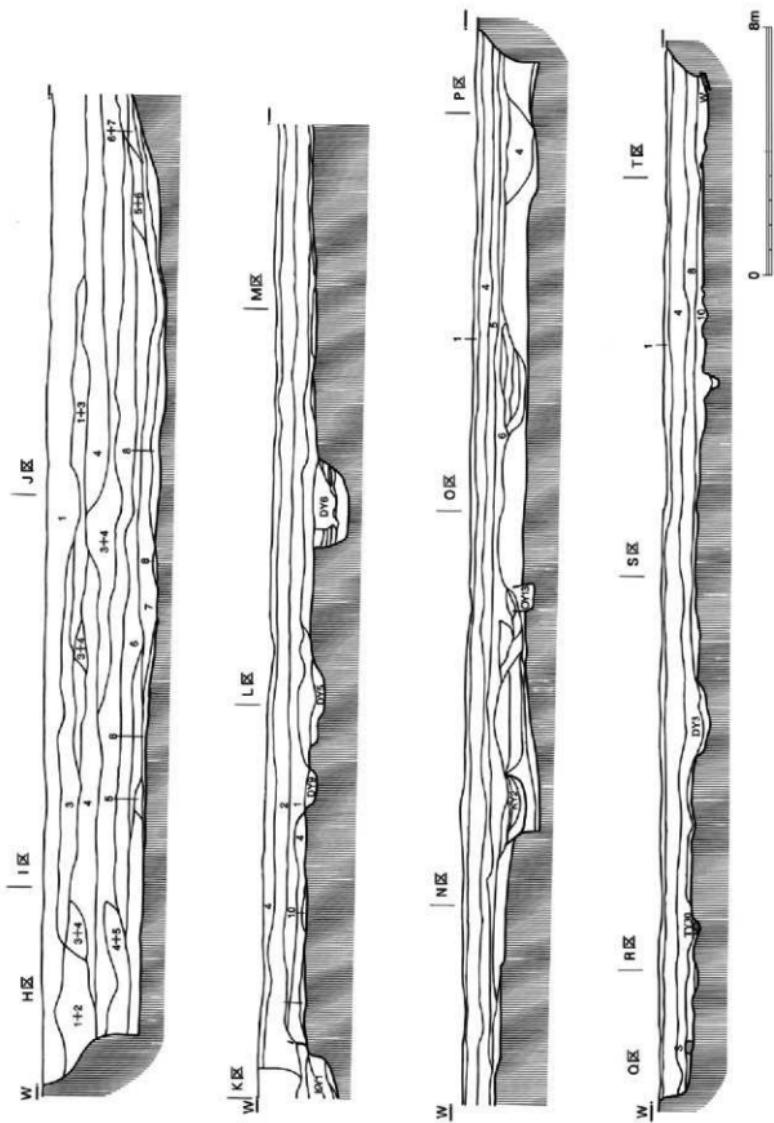
第6図 調査区平面図（3）



第7図 KY1 堀跡断面図



第8図 北壁土層断面図（1）



第9図 北壁土層断面図（2）

極僅かで、近世以降の遺構と判断される。

K Y34は、B調査区の南壁面に確認された。南側は調査区外で全体は不明であり、土壌の可能性もあるが溝跡とした。トレンチ中央部でカーブする。確認長、幅1.4cm、長さ4.72m、深さ38cmを測る。掘り方は全体的に垂直に掘られているが、東側は極端に細い。底部は西側は平坦であるが、東側は緩やかである。出土遺物は極僅かで、東側底部で30cm大の礫が4個出土している。近世以降の遺構と判断される。

K Y36は、B調査区の南東壁面から北壁中央に確認された。確認長、幅35~80cm、長さ4.58m、深さ約25~37cmを測る。掘り方は全体的に垂直に掘られており、底部は平坦であるが、南側で2箇所の凹みがある。出土遺物はなく、近世以降の遺構と判断される。

K Y56は、D調査区の南東壁面に確認された。南東側は調査区外で不明であるが、西側で南に直角にカーブする。確認長、幅約1m、長さ4.18m、深さ約50cmを測る。掘り方は全体的に垂直に掘られており、底部は平坦である。東側で水道管に切られている。出土遺物はなく、近世以降の遺構と判断される。

## 2 土壌

D Y57は、D調査区の中央部南側に確認された。北側は水道管に切られているが、平面形は不正橢円形を呈し、確認長、径1.35m、深さ28cmを測る。掘り方は東側が緩やか、北側が垂直に近く、底部は東側がやや低い。南西側底部に10~20cm大の礫が5個確認された。出土遺物は陶磁器・ガラス製品等であることから、近世以降の遺構と判断される。

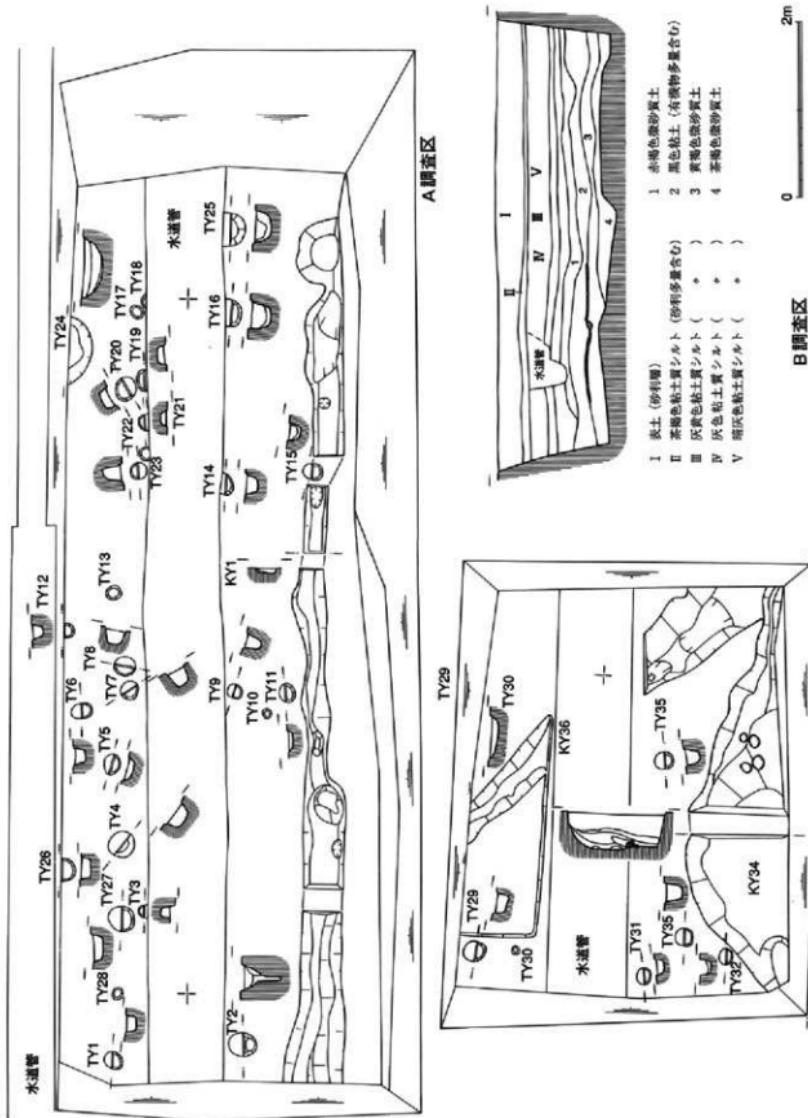
D Y67は、D調査区の中央部北側に確認された。南側は水道管に切られているが、平面形は方形を呈し、確認長、径1.10~1.85m、深さ23cmを測る。掘り方は西側が緩やか、東・北側が垂直に近い。底部はほぼ平坦である。中央部~西側に礫12個確認された。出土遺物は陶磁器・ガラス製品等が僅かあり、近世以降の遺構と判断される。

## 3 不明遺構

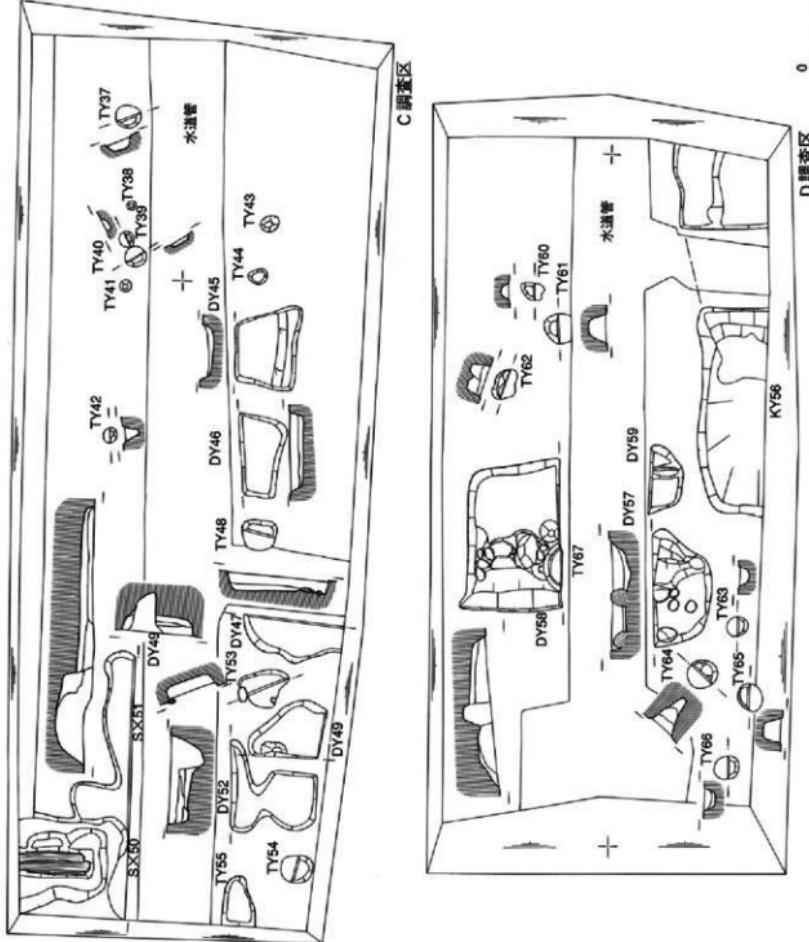
S X50は、C調査区の西側北壁面に確認された。北側は調査区外であるが、平面形は不正橢円形を呈し、確認長、径1.8~1.23m、深さ60cmを測る。掘り方は南東側が緩やかであり階段状で、西側は垂直に近く、底部は平坦である。中央部に径20cmの丸木杭が南北方向に3本に重なって確認されたが、丸木杭は近代に考えられる。出土遺物はガラス製品があり、近世以降の遺構と判断される。

## 4 柱穴

今回の調査で確認された柱穴の規模は、径10~78cm、深さ11~48cmを測る。掘り方は殆んどが垂直に掘り込んでおり、底部はほぼ平坦である。数十基確認されているが、調査区が狭いこともあり柱穴で建物を構成するには至らなかった。全ての柱穴が近世以降に位置すると考えられる。



第10図 A・B調査区平面図（1）



第11図 C調査区平面図(2)

### III 出土遺物

2カ年の調査で出土した遺物は、整理箱で約60箱あり、総計2,208点ある。平成11年度の調査箇所ではK・Y1堀跡からの出土が殆んどで、他遺構内出土が若干ある。平成12年度はS・X50不明遺構からの出土が多い。その内訳は大別するとA～L群11形態に分けられる。A群(土器類)、B群(瓦器質土器)、C群(陶磁器)、D群(染付陶磁器)、E群(その他陶磁器)、F群(火具)、G群(坩堝)、H群(かわらけ)、I群(木製品)、J群(石製品)、K群(鉄製品)とした。他にガラス製品等があるが、近世以降から現代にかけての製品であることから実測は割愛した。

以下、遺物の実測したものについて概要を述べる。なお、数値的な詳細については表-1～15を参照されたい。

平成11年度

#### A群Ⅰ類(土器)「第12図1」

1は口縁部片である、肩部に撲糸の結束回転紋を施し、地文に斜縄を有することから、弥生土器(十王台式)の壺形土器と推測する。

#### A群Ⅱ類(土師質土器)「第12図2・3」

2は土師質土器の両黒小型壺で、内外面に丹念なミガキを施している。15世紀後半に位置づけられる。3は壺の底部片であるが、赤褐色を呈し、外面は斜のケズリ、内面は斜位のタタキ調整を施している。

#### A群Ⅲ類(須恵器)「第12図4～6」

4は壺、底部がわりあい小さく、胴部が緩やかにふくらみながら口縁部で外反する。底部は回転糸切り。大浦B遺跡Ⅲ期、8世紀末に位置づけられる。5の内面はロクロケズリ調整、外面にはカキメ調整、6の内外面はカキメ調整を施している壺形土器である。

#### B群Ⅰ類(手焙)「第13図11～15」

手焙は器高が高いタイプと低いタイプがあり、高い11は口縁部付近で緩やかに外反し、低い12は口縁部で内湾する。14・15は口縁部片のみであり、口辺部に渦巻方格紋が施される。

#### B群Ⅱ類(土壙)「第14図22～25」

22は錫釜である。23は器高が低い土壙で厚みが薄い、内部に3単位の取手が付く内耳取手土壙の可能性がある。24は赤褐色を呈し、口縁部でほぼ水平に大きく外反する。25は褐色を呈し、口縁部で若干外反する。

#### B群Ⅲ類(擂鉢)「第26・27図126～135」

器高、口径の規模が異なる大型と小型の擂鉢がある。126は内部に1単位が6本のスリメ、127には10本のスリメがあり、上部は間隔をおいて施されている。土質から127は戸長里窯とも考えられるが断定できない。中世後期から近世初頭に位置づけられる。128～135は口縁部まで膨らみをもつものと真直ぐ立ち上るがものがあり、口縁部直下が大きく突き出るものがある。近世以降に位置づけられる。

B群IV類（杓たて）「第13図16・18」

底部片の16は赤褐色、口縁部片の18は黄褐色を呈す茶道具である。近世以降に位置づけられる。  
B群V類（壺）「第13図20・21」

双方口縁部片の小型壺である。20は赤褐色を呈す。21は黄褐色を呈し、櫛状の工具で水平に強く構目を施し、内部には漆を塗布している。

B群VI類（その他瓦器質土器）「第13図17・19」

19は底部片で、口径15cm、底径15.6cm、器高4cmの赤褐色を呈する土器である。用途は不明であるが二次焼成を考えると、サヤであろうか。

C群I類（碗類）「第16・17図46・50～52・54・56」

46は乳白色を呈し、貫乳が入る志野である。50は緑釉を呈し、貫乳が認められる。51・52は底部片のみであるが美濃系。54は大堀相馬。56は産地不明。

C群II類（皿類）「第16・17図47～49・53・64」

48・49は乳白色を呈し、貫乳が認められる志野。49には若干の高台が付き、底部には重ね焼き跡が認められる。53は美濃系、64は濃茶色の釉薬であるが産地不明。

C群III類（鉢類）「第16・17図45・57～63・67～69」

45は緑釉を呈し、貫乳が認められる。57の器形は口縁部が大きく外反し、白色を呈する。59は口縁部が若干外反し、白色を呈する。61は茶褐色を呈し、内部底に重ね焼跡が3単位認められる。63は濃茶色を呈し、口縁部は内反する。62は茶褐色を呈する大型の鉢である。

片口67は茶色、68は白黄色を呈する。69は内面が赤褐色、外面が茶褐色を呈する。産地不明。72は濃茶色を呈するサヤであるが、鉢に転用したものと考えられる。成島焼18世紀に位置づけられる。

C群IV類（壺類）「第16図55」

55は胴部から口縁部まで緩やかに内湾し、内外面に濃緑色の釉を呈する。

C群V類（壺類）「第18図71・74・81・82」

71は胴部から口縁部直下まで内湾し、口縁部までほぼ直立になる。成島焼、近世初頭に位置づけられる。74は茶褐色を呈する備前系の壺。81は内外面が茶色を呈する。82は内外面が茶色を呈する小型の壺。産地不明。

C群VI類（蓋）「第17図65・66」

蓋の出土は極僅かである。65は小型で口唇部が餘々に狭まる。66は行平の蓋である。近世以降の製品、産地不明。

C群VII類（香炉）「第18図70」

香炉は数点出土しているが、実測できたのは1点である。色調は外面の底部を除く内外面に綠茶色の釉薬が認められる。岸窯か。

C群VIII類（杓たて）「第18図73・75～80」

73・75は濃紺色に乳白色の特徴から成島焼である。76・77・79・80は底部片のみである。78の内外面は暗褐色を呈する。産地不明。

### C群X類（瓶）「第18図83」

外面は白色を呈し、細かい貫乳が認められる。口縁部は極小さく、胴部は横に広がり、形態が古代の横瓶に類似する。相馬系の花瓶とみられる。

### D群I類（碗類）「第19～21図84～104」

碗類は多数出土したが破片が多く、実測したのは21点である。84～97までは湯呑茶碗、87・92は伊万里系であるが、他は產地不明。98～104は飯茶碗である。103は外面に二重網目紋、104の外面に二重網目紋、内面に一重網目紋が施され18世紀に位置づけられる。他は瀬戸系の碗である。

### D群II類（皿類）「第22・23・25図105～119・123」

皿類を一括した。118は伊万里系、113・114・116・117は18世紀頃の伊万里に位置づけられる。108・119は備前系、内面に唐草状紋、119の外面底に太明年製と書されている。107・110・112は輪花である。112・123は輸入陶磁器、他は產地不明。

### D群III類（鉢類）「第24・25図120・121・124」

121は口縁部が極端に立ち上がる鉢で、伊万里系と考えられる。内外白色釉の120・124には、内面に大胆な花紋が認められる。

### D群IV類（蓋・瓶類）「第25図122～125」

122は外面に唐草状紋がある蓋である。125の外面には蛸唐草紋があり、供善具の瓶。ともに伊万里18世紀に位置づけられる。

### E群（その他陶磁器）「第28図136～144」

136～138は急須と急須底部片である。139は小型壺で、外面底辺部以外には象牙色の釉が認められる。用途不明。140は方形を呈し、擂面には8箇を1連とする突き刺し跡が3列配置している、瀬戸系のおろし皿である。141は灰褐色で口縁部は巾着状を呈し、底中央部には貫通しない穴が認められる。用途不明。142は土製人形、143は暗緑褐色の河童を模写した水滴で、口と肩部に穿孔が認められる。144は用途不明の脚部である。

### F群（火具）「第13・14・28・29図17・26・145～153」

17は火消し壺、26・145～147は器台型土製品、近世以降と考えられる。148は焜炉、149は目皿、150が火消し壺蓋である。151は鍋物焜炉、152・153は火鉢で、152の外面は赤紫色を呈する。中世後半頃に位置づけられる。153の外面は紺色を呈し、近代以降に位置づけられる火鉢である。

### G群（増堀）「第14図27～32」

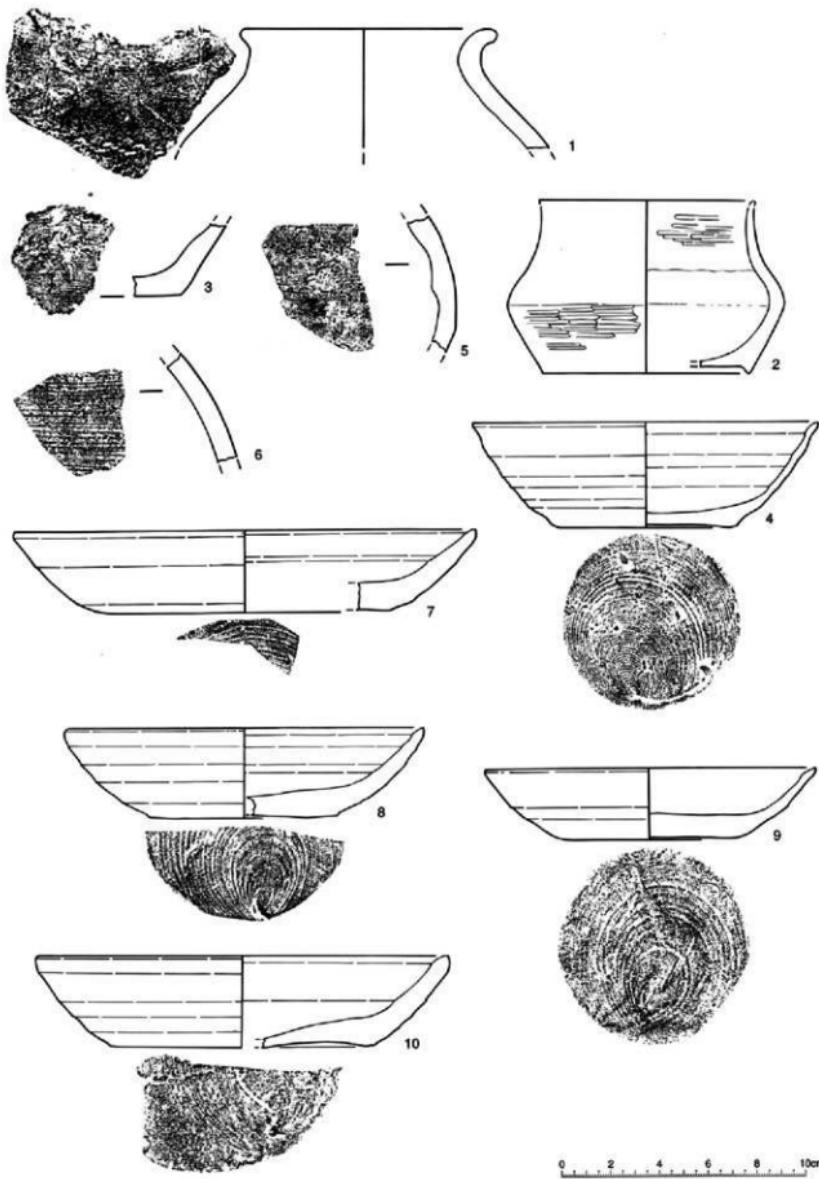
27～31の底部は丸みを呈する、手づくねの小型増堀。32は口径16cmの増堀である。

### H群（かわらけ）「第12・15図7～10・33～44」

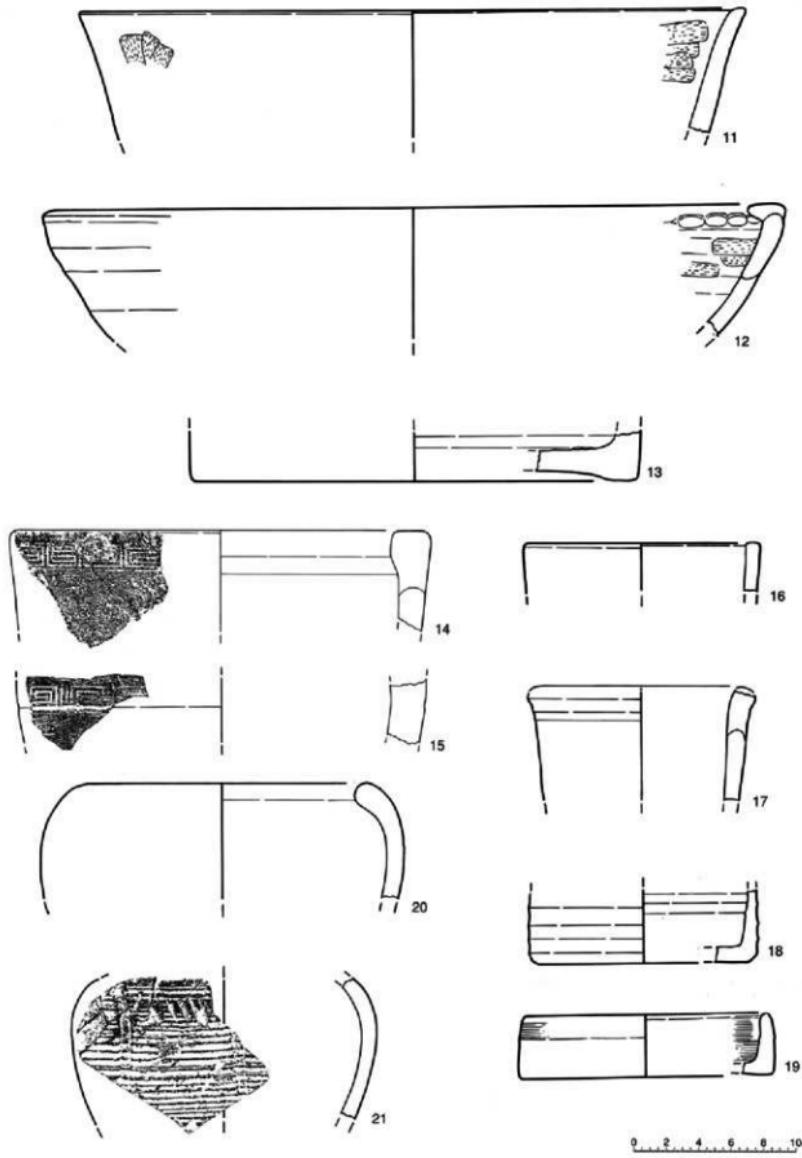
7は口径が大きく、器高が低い、内外面に黒色処理を施している。8は内面に黒色処理を施している。6・1・34～44・8は赤褐色を呈し、赤焼土器に類似する器形である。

### I群（木製品）「第30～32図154～164・168～193」

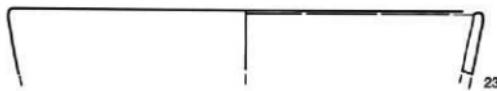
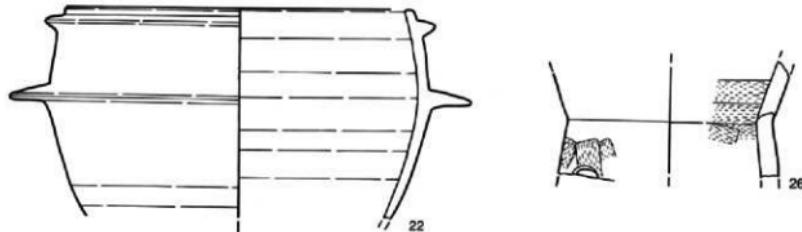
木製品には多種多様の遺物が出土しているが、殆んどが摩滅しており主な遺物のみを実測し



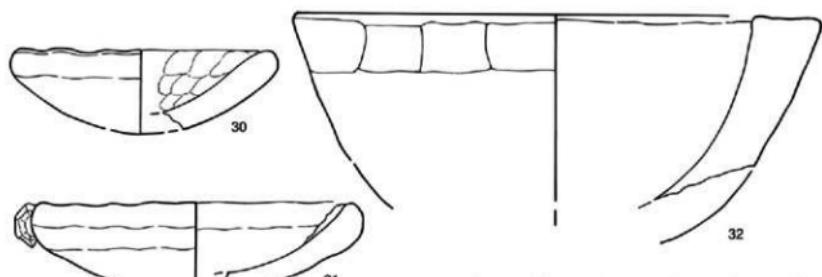
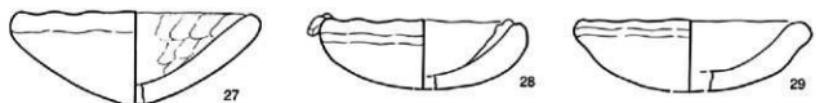
第12図 出土遺物実測図（1）



第13図 出土遺物実測図（2）

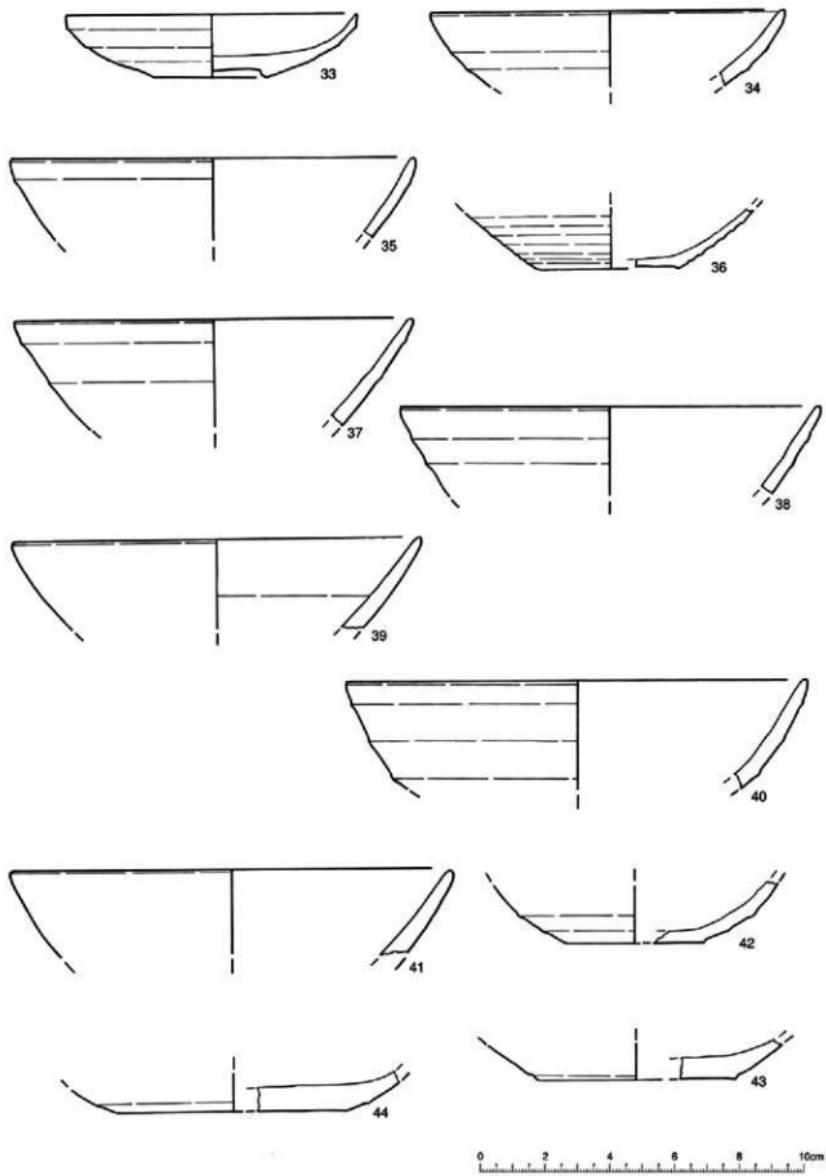


0 2 4 6 8 10cm

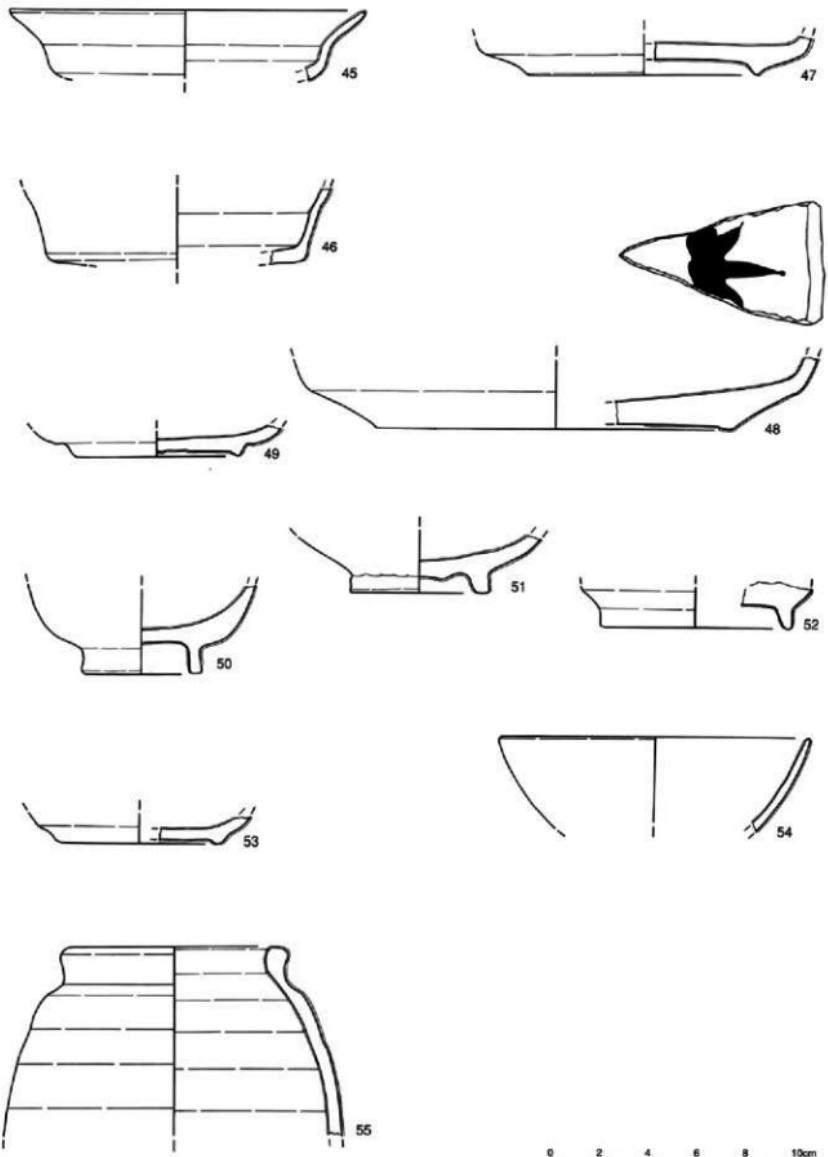


0 2 4 6 8 10cm

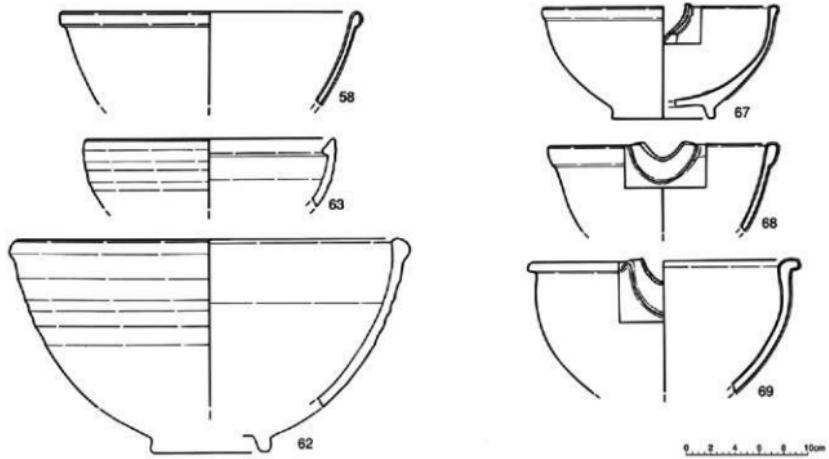
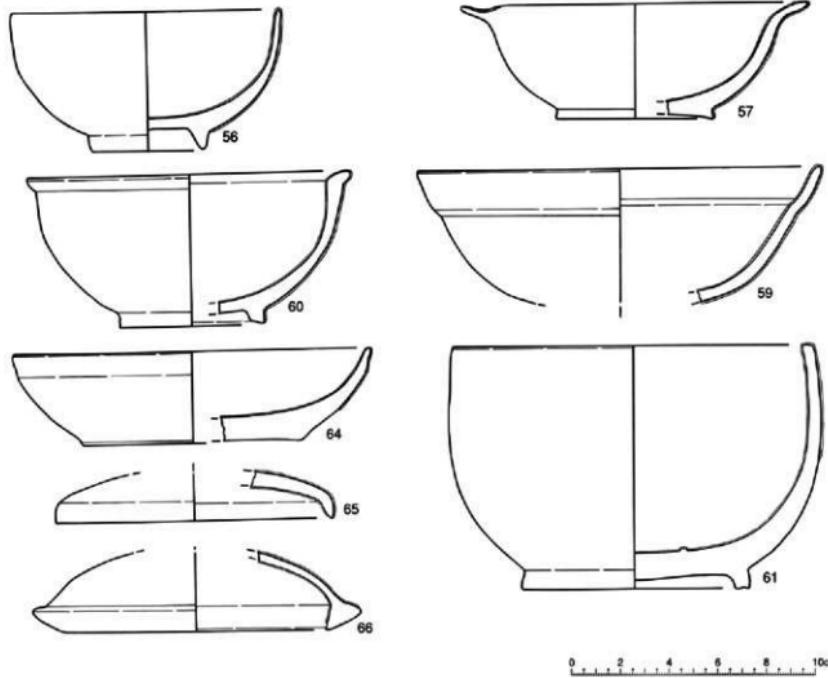
第14図 出土遺物実測図（3）



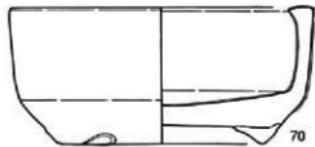
第15図 出土遺物実測図 (4)



第16図 出土遺物実測図（5）



第17図 出土遺物実測図 (6)



70

0 2 4 6 8 10cm



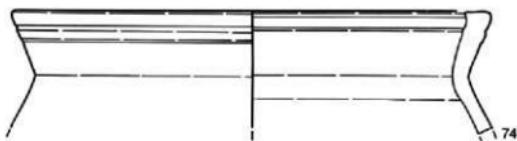
71



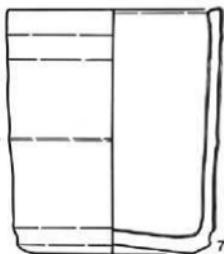
72



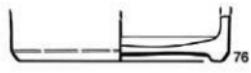
73



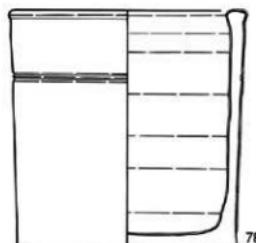
74



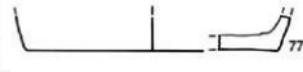
75



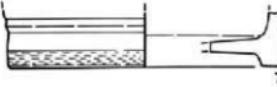
76



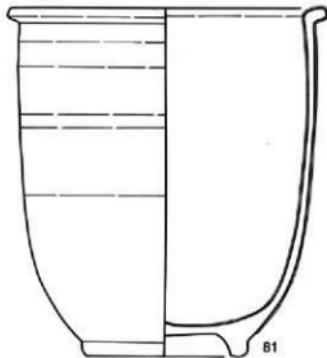
78



77



79



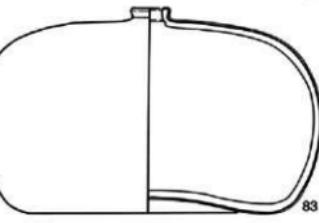
81



82



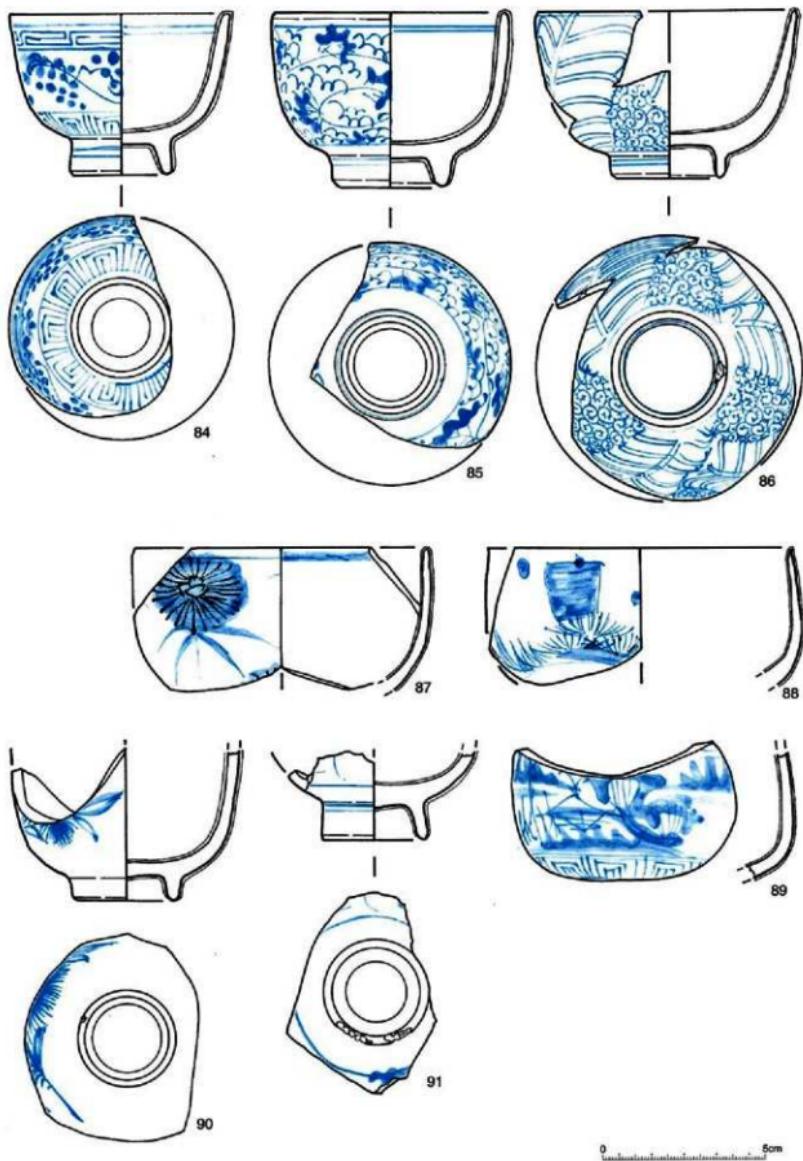
80



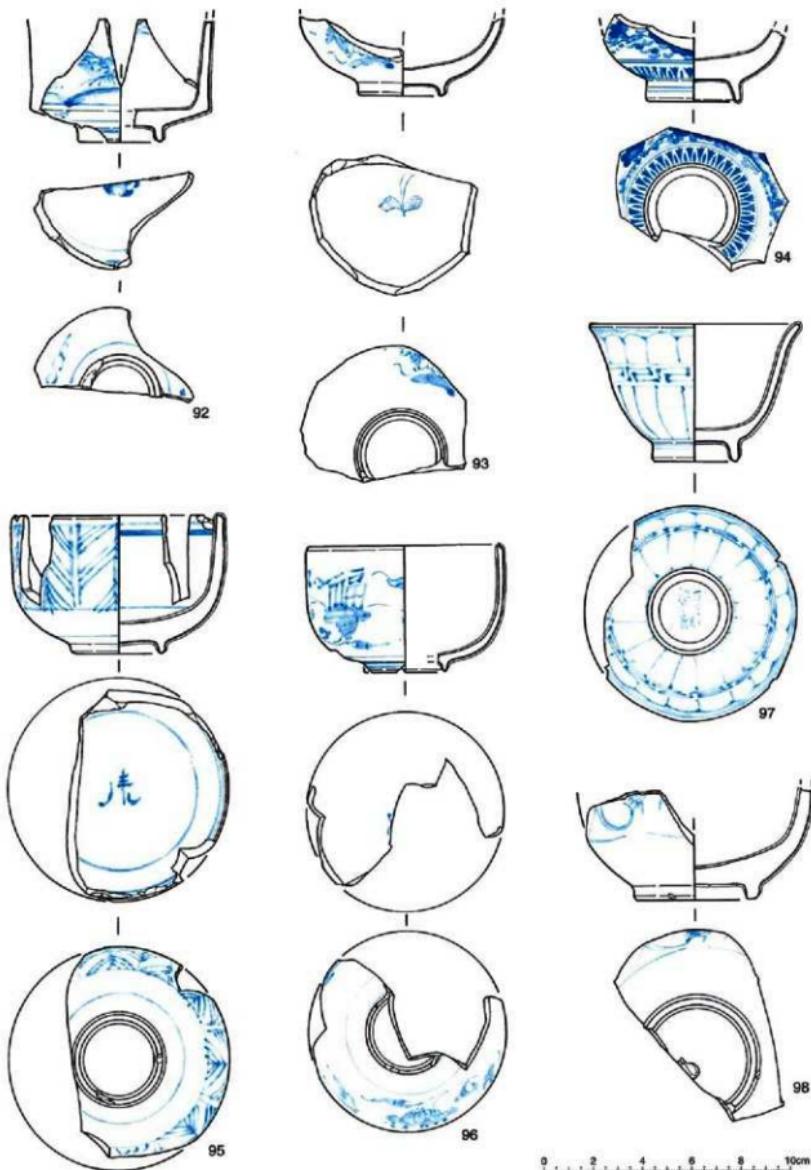
83

0 2 4 6 8 10cm

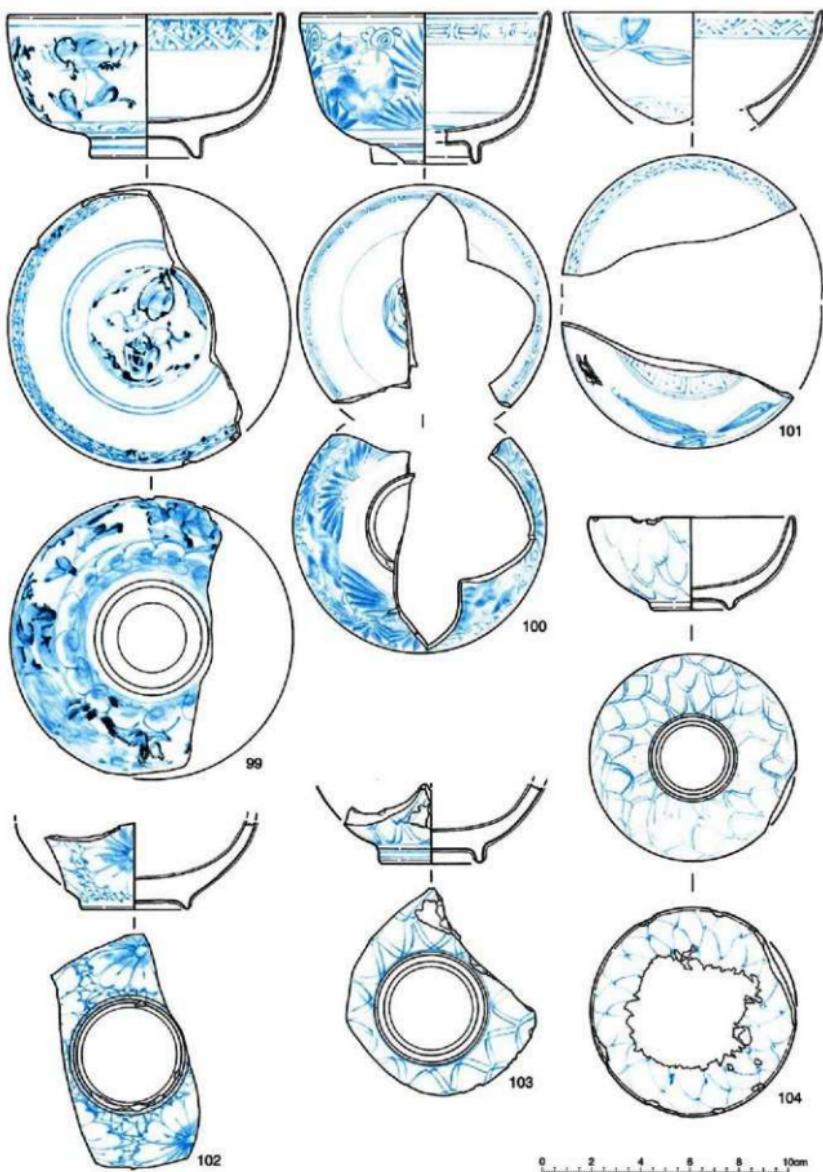
第18図 出土遺物実測図(7)



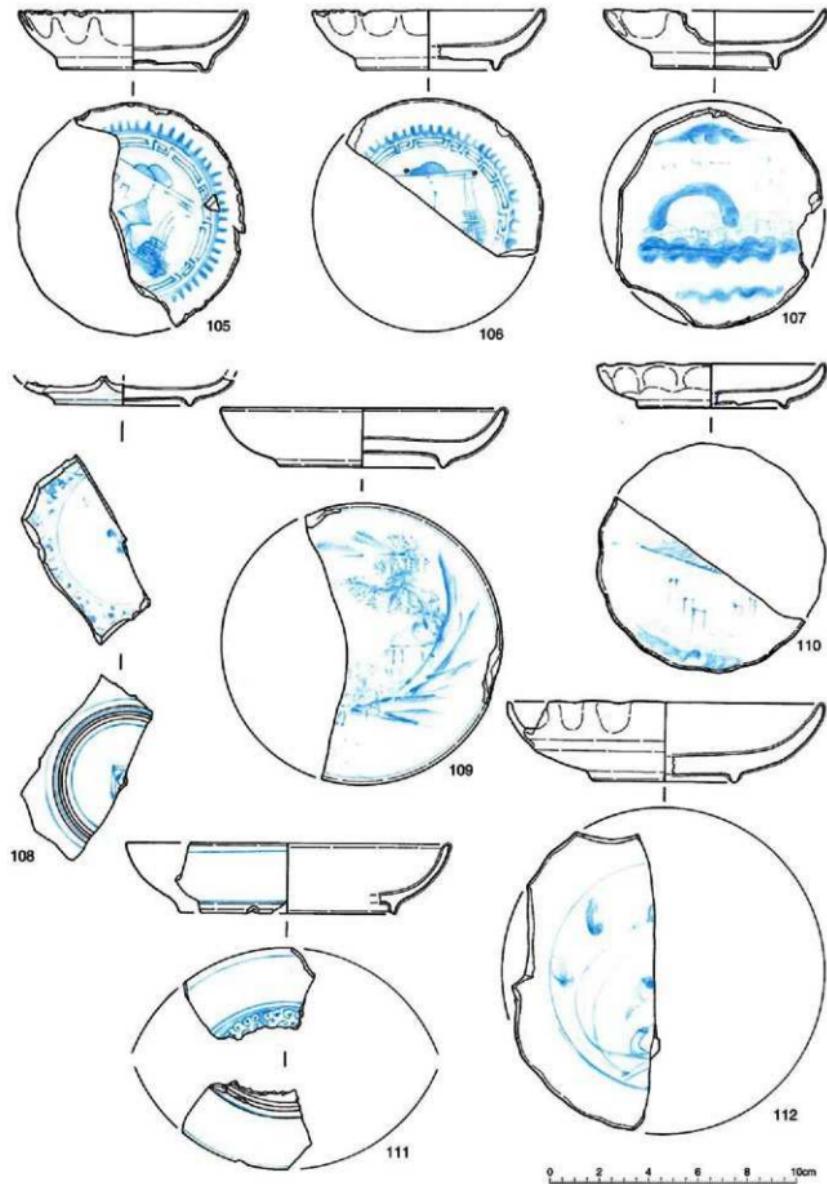
第19図 出土遺物実測図（8）



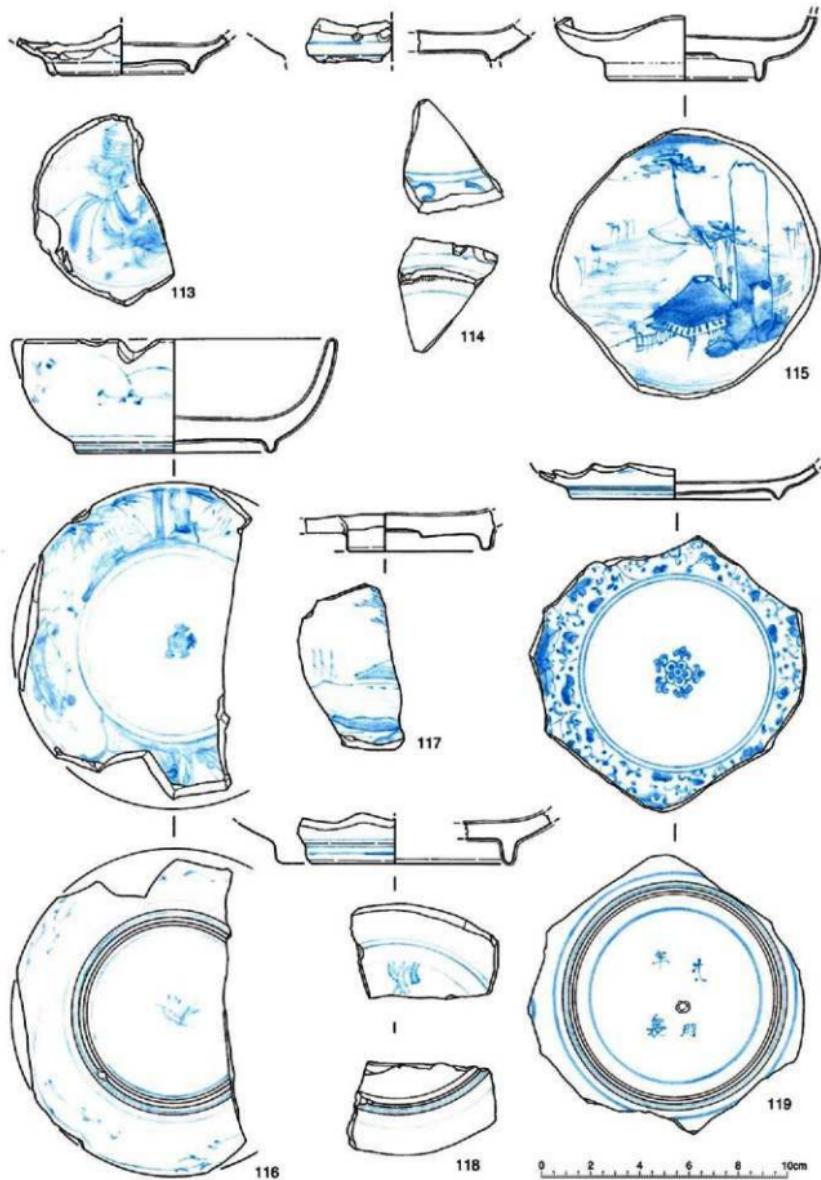
第20図 出土遺物実測図（9）



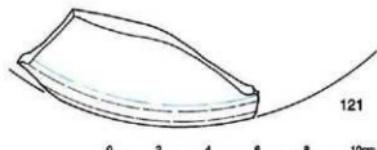
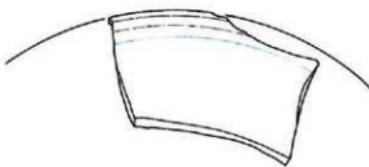
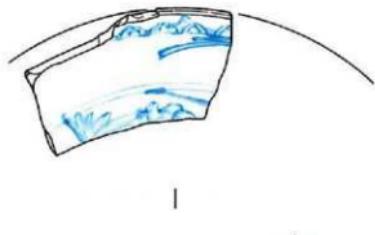
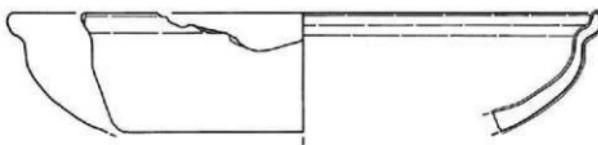
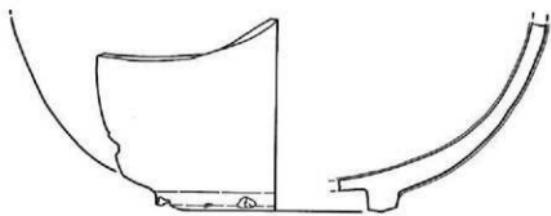
第21図 出土遺物実測図 (10)



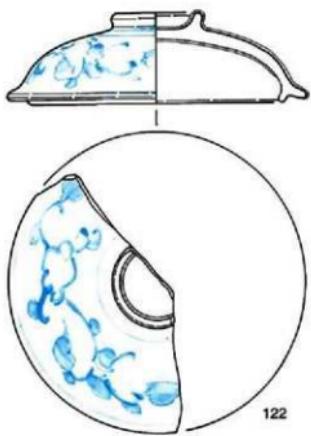
第22図 出土遺物実測図 (11)



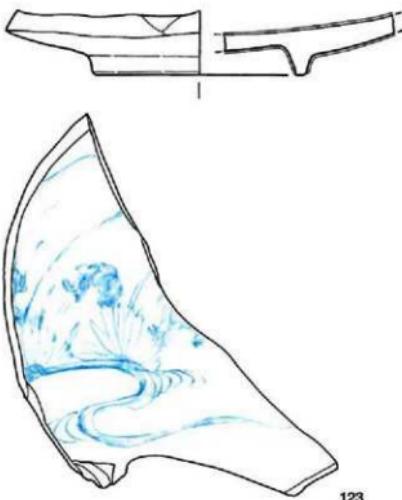
第23図 出土遺物実測図 (12)



第24図 出土遺物実測図 (13)



122



123



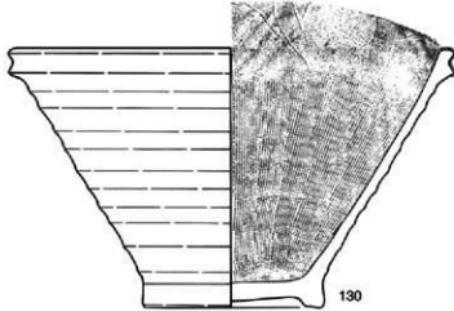
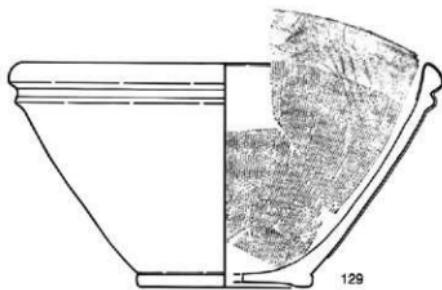
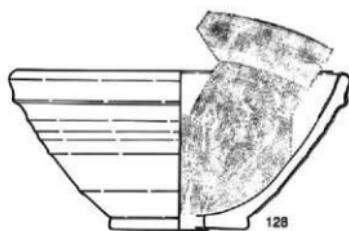
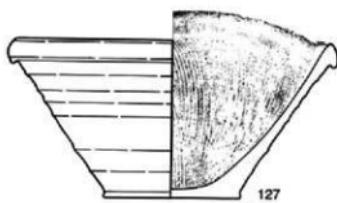
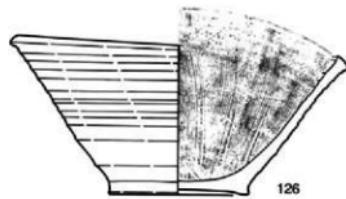
124



125

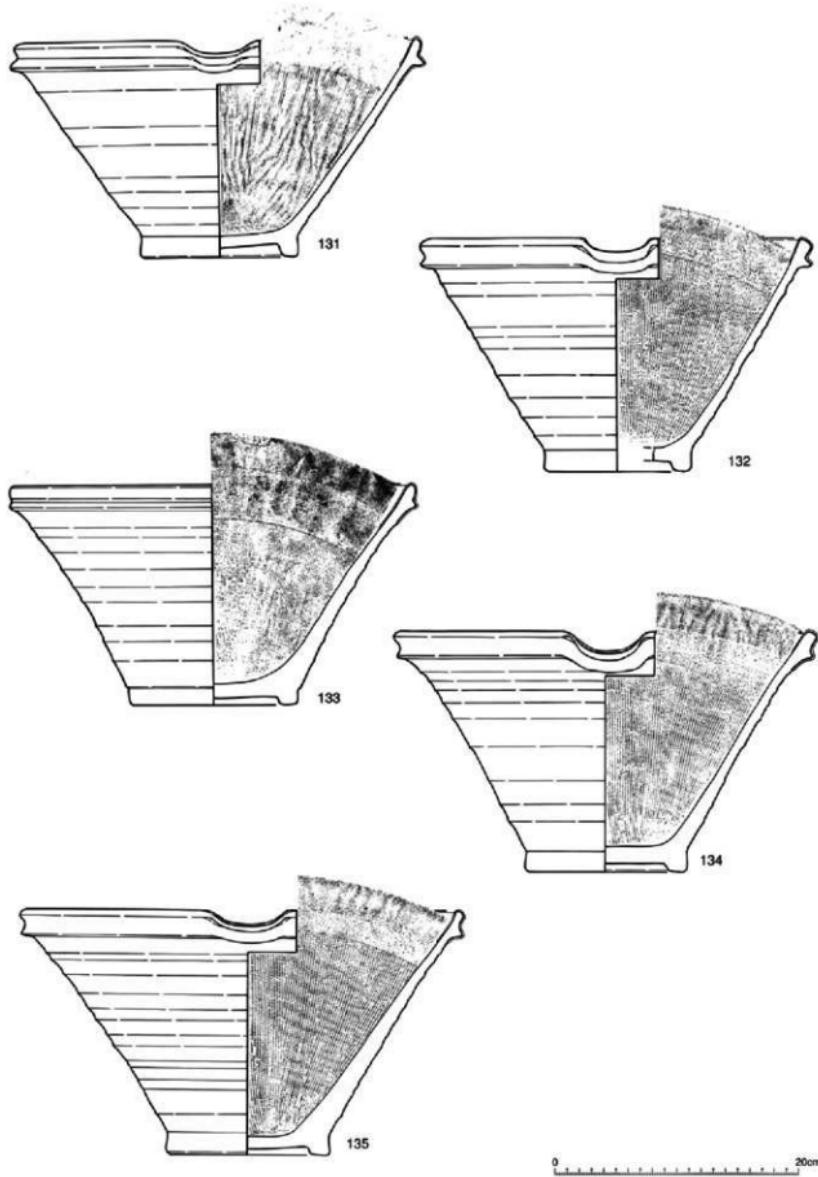
0 2 4 6 8 10cm

第25図 出土遺物実測図 (14)

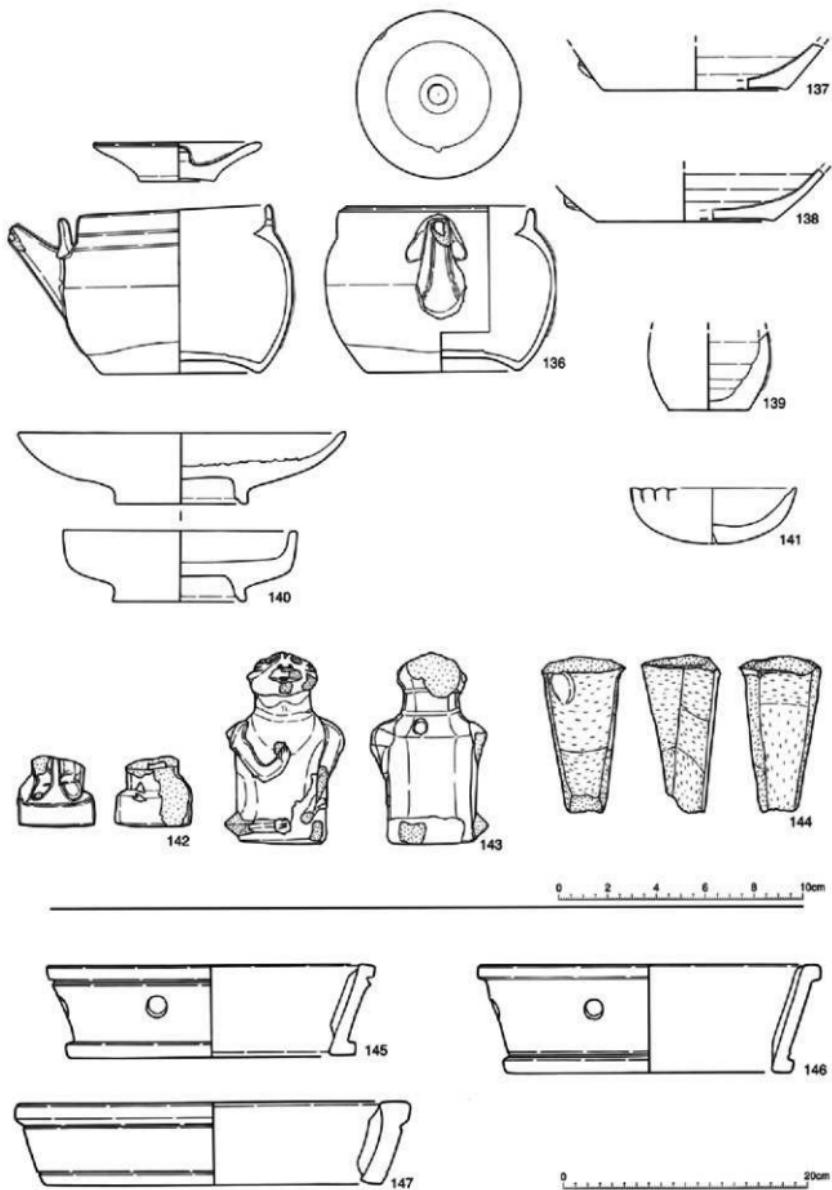


0 2 4 5 8 10cm

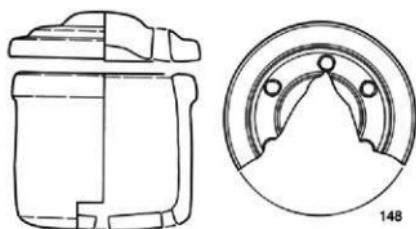
第26図 出土遺物実測図 (15)



第27図 出土遺物実測図 (16)



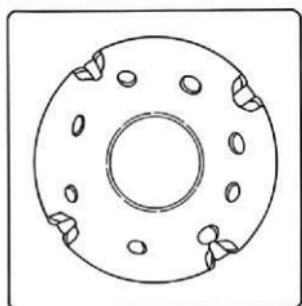
第28図 出土遺物実測図 (17)



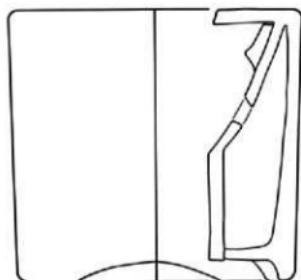
148



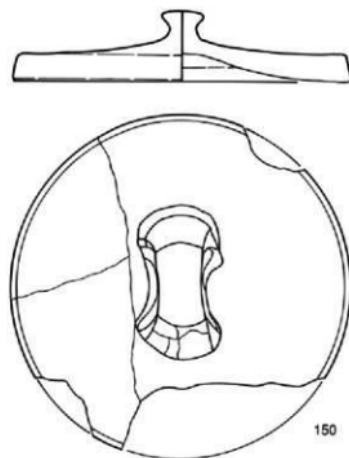
149



150



151



152



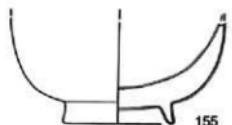
153

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20cm

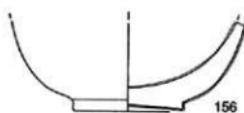
第29図 出土遺物実測図 (18)



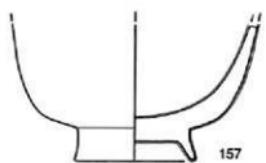
154



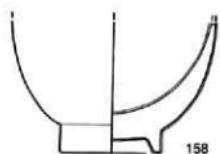
155



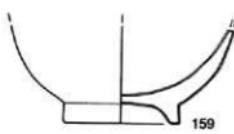
156



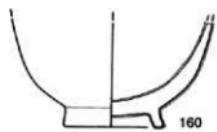
157



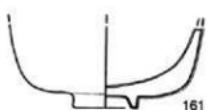
158



159



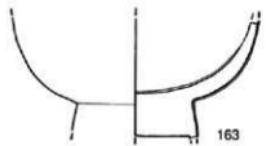
160



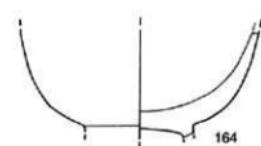
161



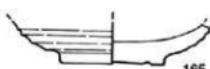
162



163



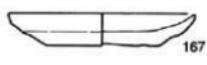
164



165



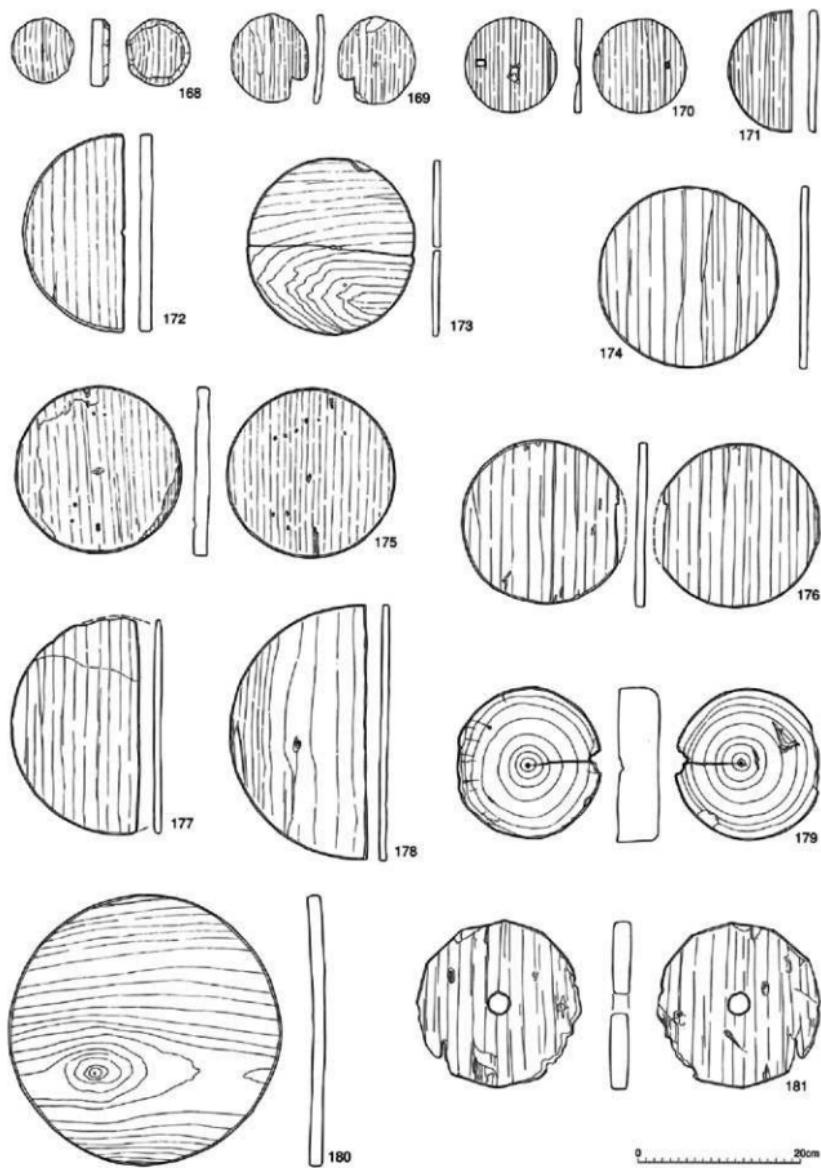
166



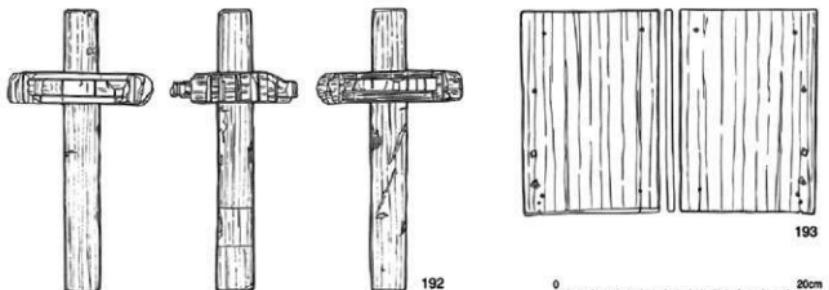
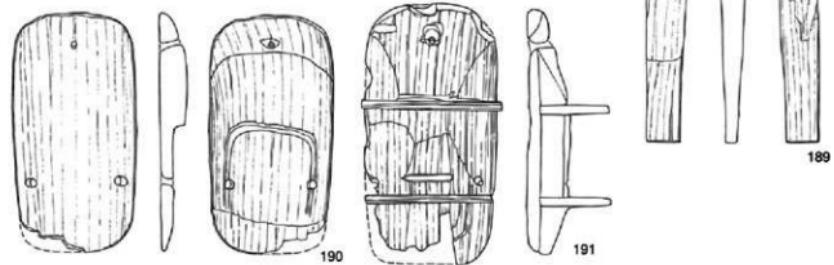
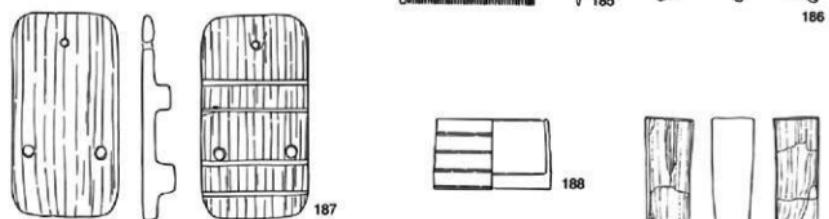
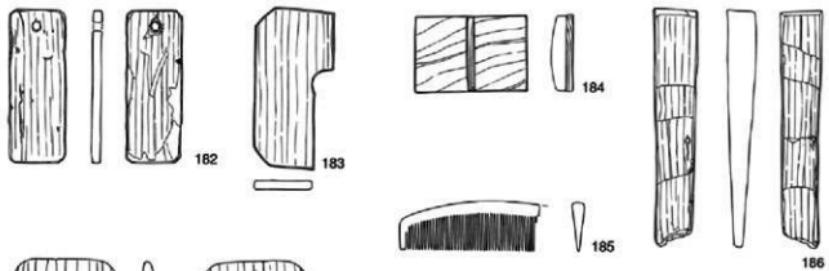
167

0 2 4 6 8 10cm

第30図 出土遺物実測図 (19)

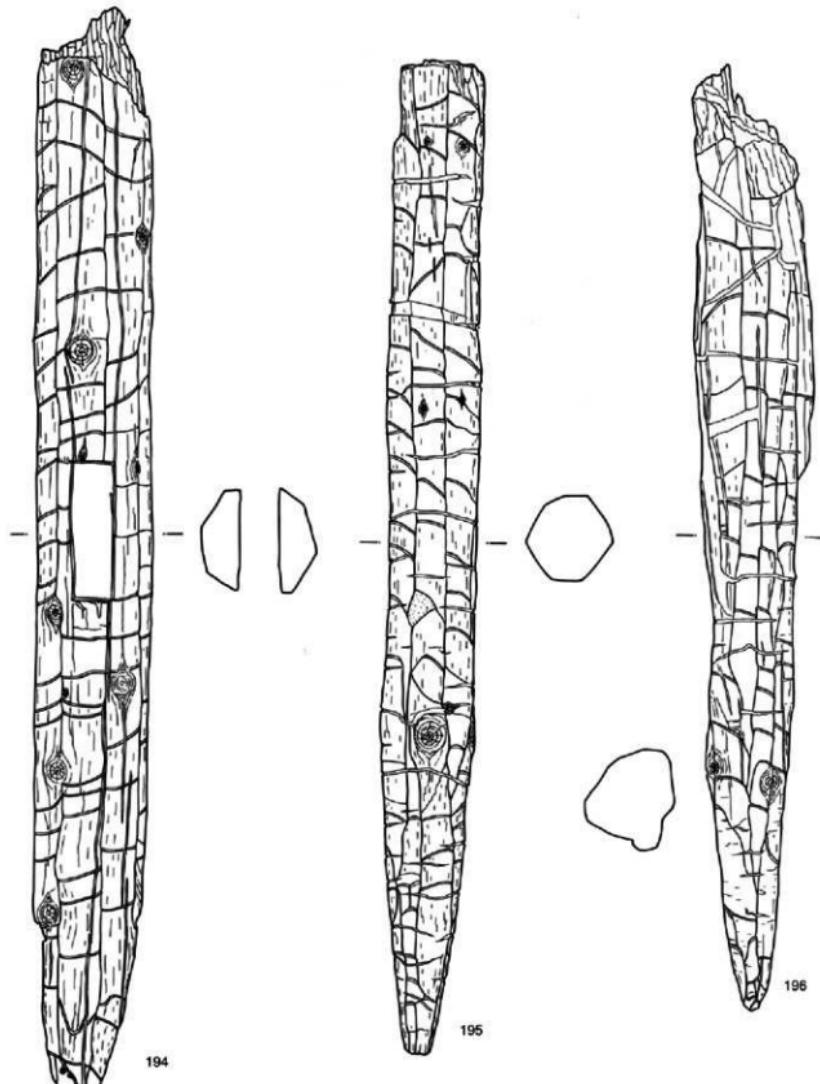


第31図 出土遺物実測図 (20)

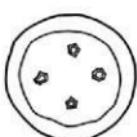


0 20cm

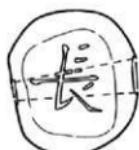
第32図 出土遺物実測図 (21)



第33図 出土遺物実測図 (22)



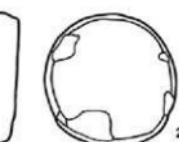
197



198



199

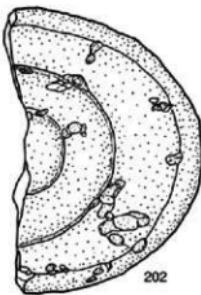
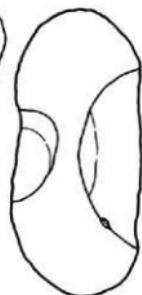
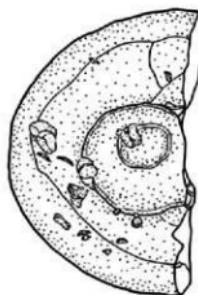


200

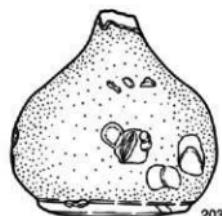


201

0 2 4 6 8 10cm



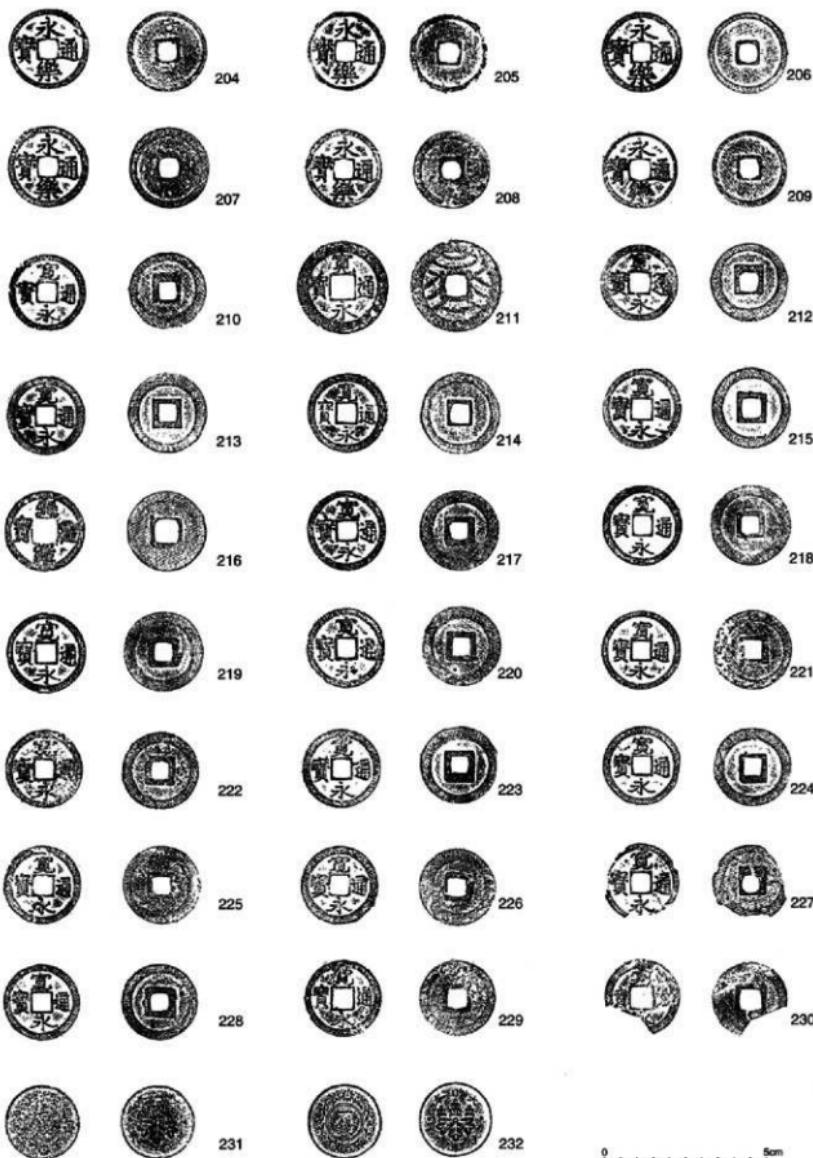
202



203

0 2 4 6 8 10cm

第34図 出土遺物実測図 (23)



0 5cm

第35図 出土古錢拓影図 (24)

た。漆器椀は56点出土している。154～164は内外面ともに朱及び黒色の漆を塗布している。器形は、口縁部まで急に立ち上がるものと、緩やかやに立ち上がる漆器がある。

168～179は曲げ物の底である。170には桜皮を1箇所はめ込んでおり蓋の可能性がある。18は丸太状の木を横に切り、181は柾目と平行に切り、中央部に穿孔をもつ円形の木製品で用途不明。182・183は板状を呈し、182は片方の端に、184は中央部に穿孔が施されている。

186・187は楔状木製品。184は小型の蓋、185は横櫛、188は竹器、189～192は下駄、192は差歎の下駄である。192は棒状の先端付近に、齒車状の部品が付随する。紡績機織機の部材とも考えられるが機種不明。193は板状を呈し、縁には数個の穴が確認できる。用途不明。

#### J群（石製品）「第34図197～203」

197は底部に4箇の器台が付く小型壺であるが用途不明。198・199は2～3cm 大の円盤状石製品である。200は煙草具の根付、片面は「長」、反対側には判読不明の文字が刻み込まれている。201は脚が付き、小型の台状を呈するが、用途不明。202は石ウス、203は宝珠形を呈し五輪塔の最上部（空）である。

#### K群（鉄製品）「第35図204～232」

鉄製品は、簪・釘状鉄製品・装飾品等、多種多様であるが摩滅が著しいため、実測したのは古錢のみである。204～209は永樂通宝（1408～）、210～230は寛永通宝（1636～）、231・232は大正時代の一錢である。

### 平成12年度

#### A群II類（土師器）「第36図233」

茶褐色を呈し、外面の胴部には縦に大胆なケズリ、内面に横位のナデを施している壺。10世紀後半に位置づけられる。

#### B群II類（土壙）「第36図234」

赤褐色を呈する土壙で、厚みが薄く、口縁部では直立に外反する。外面には横のナデ、縦のハケメが施されている。

#### C群I類（碗類）「第37図243」

破片が多く、実測したのは1点のみである。胴部全体を押圧した碗である。近世以降に位置づけられるが、産地不明。

#### C群II類（皿類）「第37図239～242・244・245・247」

皿類を一括した。239・240・242は白灰色を呈し、242は輪花であり、近世以降に位置づけられる。産地不明。241は美濃系、245・246は飯坂岸窯。

#### C群III類（鉢類）「第36・37図235・236・246・248」

235・236は口縁部まで膨らみをもち立ち上がる。235は灰白色、236は青灰色を呈す。246は褐色を呈し、口縁部で大きく外反する。248は内面が褐色、外側が濃茶色を呈する浅鉢である近世以降に位置づけられるが、産地不明。

C群V類（壺類）「第36図237・238」

237は胴部から口縁部までほぼ垂直に立ち上がり、口縁部が水平に外反する。238の外面は黒褐色、内面には乳白色の釉薬がある成島系の壺である。

D群I類（碗類）「第38・39図249～260・262・263・265」

碗類は破片が多く実測したのは15点である。249～260・262・263までは湯呑茶碗、256～259は飯茶碗である。256は伊万里系であるが、他は瀬戸系と考えられるが、産地不明で近世以降に位置づけられる。

D群II類（皿類）「第39～41図261・271～278」

261は中央内面に花卉を施した角皿、271～273は輪花になる瀬戸系の小皿、277・278は伊万里系に属する。他は産地不明。

D群III類（鉢類）「第42～44図267・279～281・286」

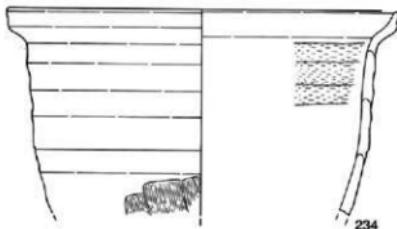
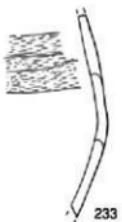
267は花弁、280は内面に獸及び風景、口縁部は輪花になり、281は内面に風景が描かれる深鉢であり、近世以降に位置づけられる、産地不明。286は円錐形の鉢で外面には蛸唐草紋があり、伊万里系に属する。

D群IV類（蓋・瓶類）「第44図282～285」

282は外面に雲紋他がある丸蓋である。283は外面に草花紋がある方形蓋である。用途不明。284は外面に花、唐草紋等が描かれている円形の蓋。285の外面には蛸唐草紋があり、伊万里系に属する。

E群（その他陶磁器）「第39図264・266・268～270」

264は外面に花弁、植物が描かれている供善用の瓶。266・268～270は徳利。全て近世以降に位置づけられる。産地不明。



234



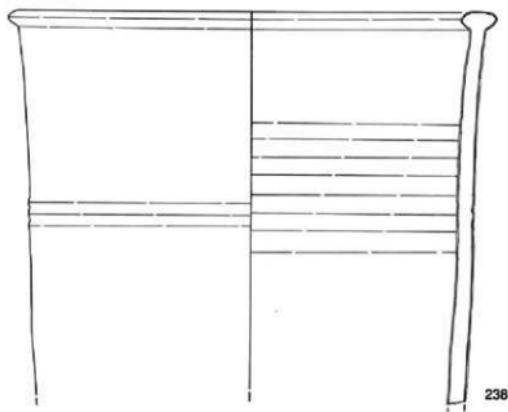
235



236



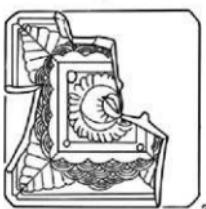
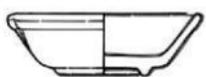
237



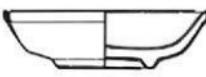
238



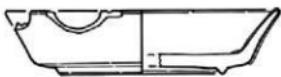
第36図 出土遺物実測図 (25)



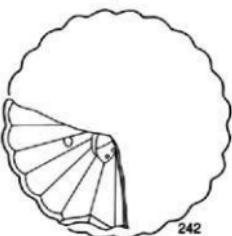
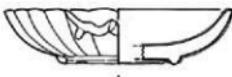
239



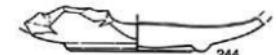
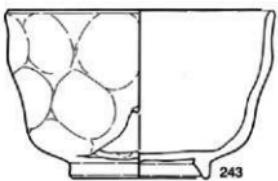
240



241



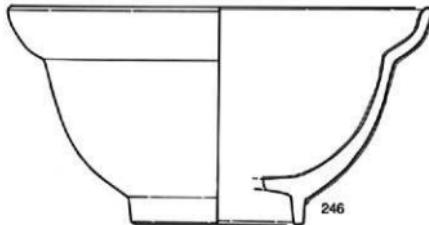
242



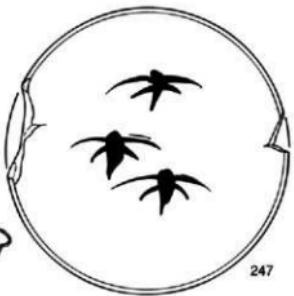
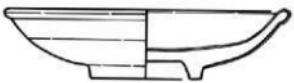
243



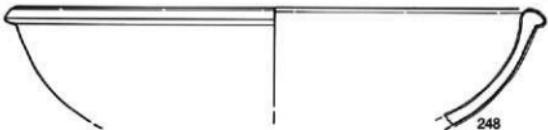
244



246



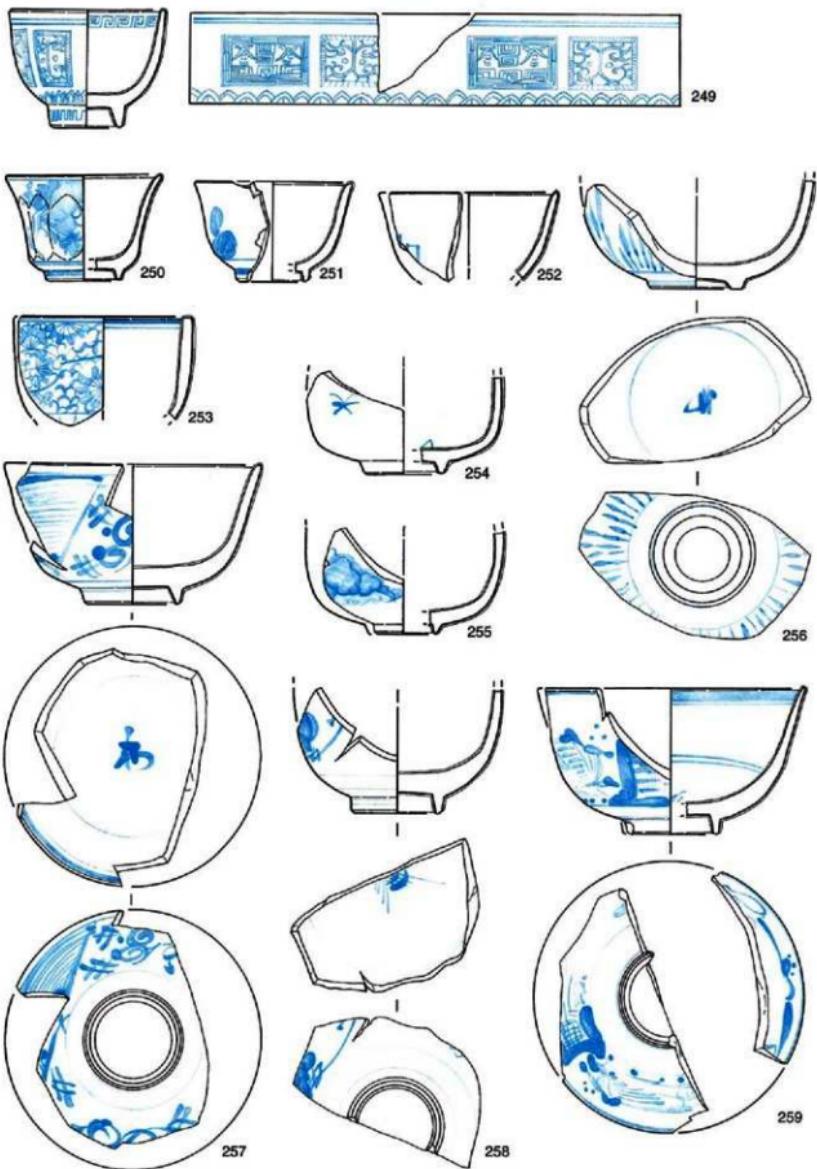
247



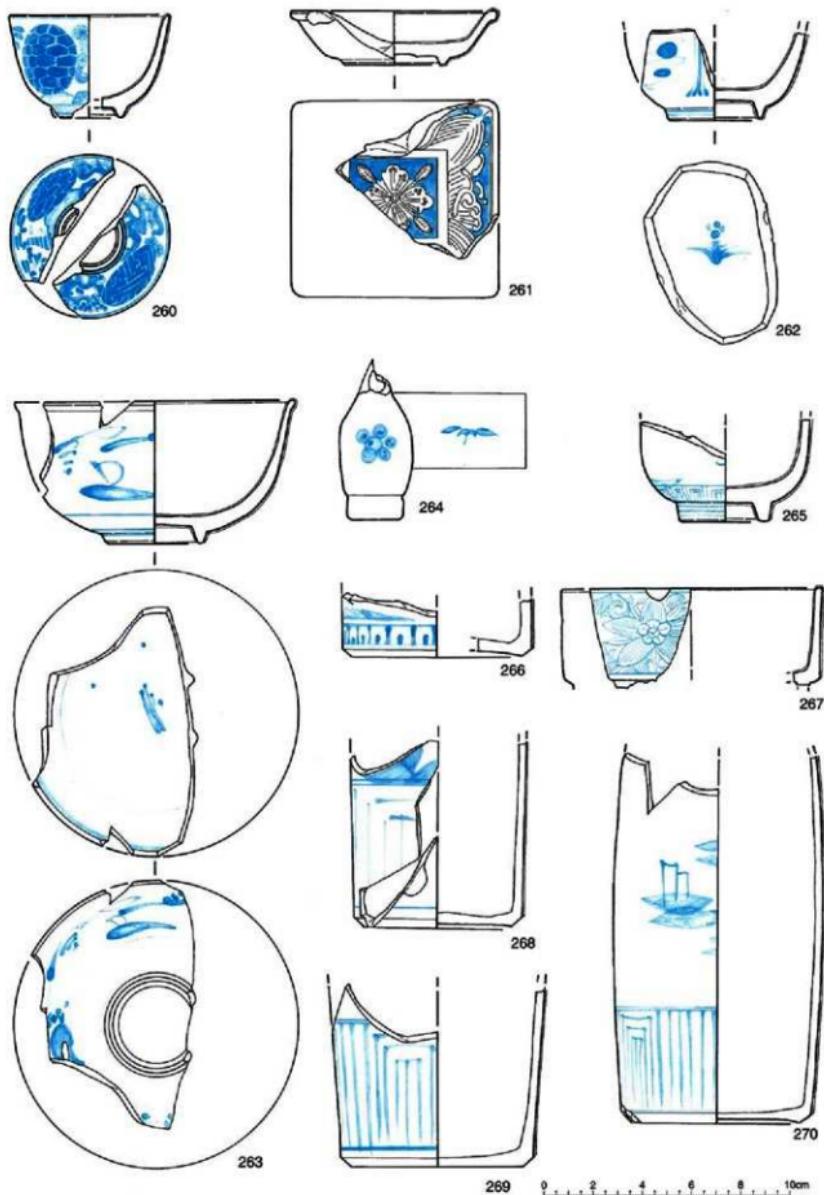
248

0 1 2 3 4 5 6 7 8 10cm

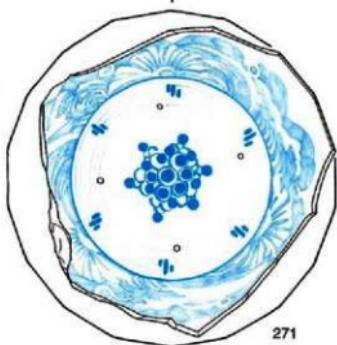
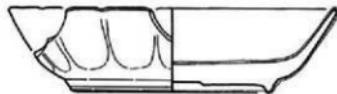
第37図 出土遺物実測図 (26)

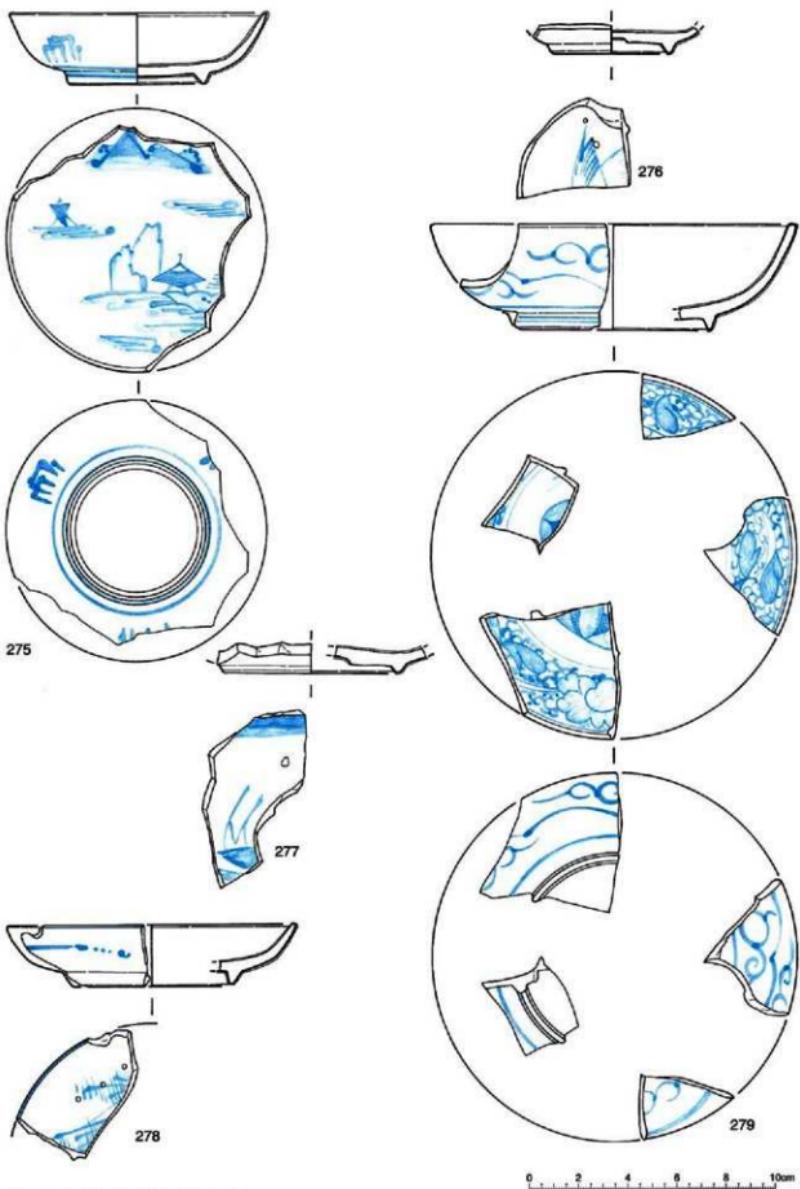


第38図 出土遺物実測図 (27)



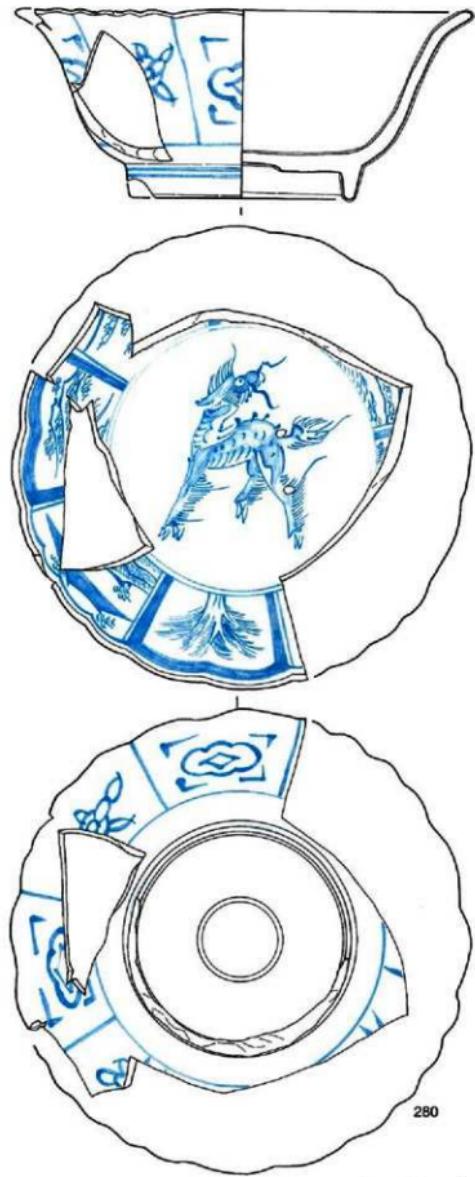
第39図 出土遺物実測図 (28)





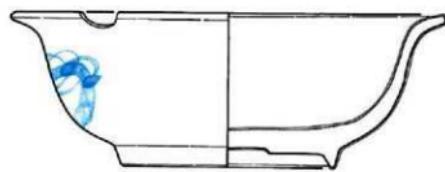
第41図 出土遺物実測図 (30)

0 2 4 6 8 10cm



第42図 出土遺物実測図 (31)

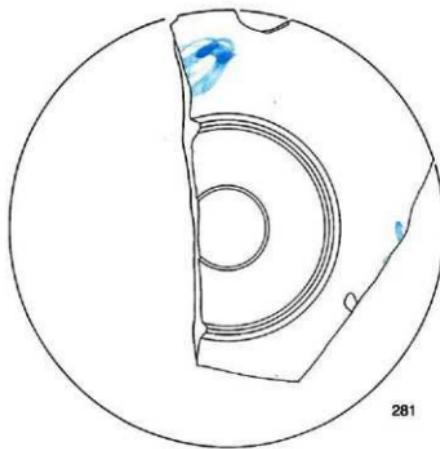
0 2 4 6 8 10cm



I



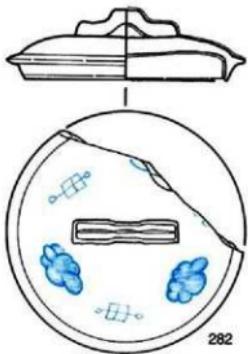
I



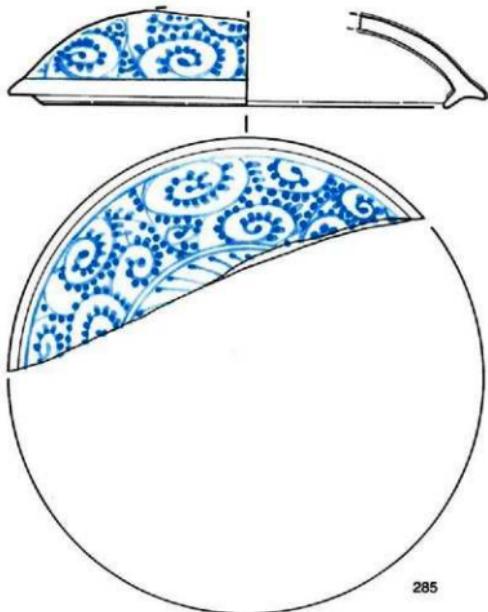
281

0 . . . . 2 . . . . 4 . . . . 6 . . . . 8 . . . . 10cm

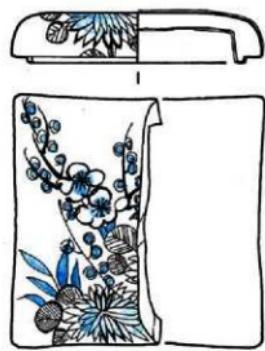
第43図 出土遺物実測図 (32)



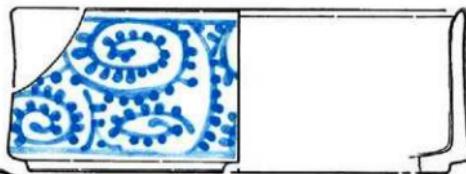
282



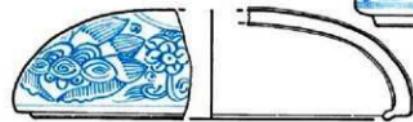
285



283



286



284

第44図 出土遺物実測図 (33)

第1表 米沢城南三の丸跡(1999)土器類観察表

| 遺物No. | 出土地区   | 検出No. | 口径   | 深   | 高   | 底径 | 外面調整 | 内面調整 | 底部切り離し調整 | 備考       |
|-------|--------|-------|------|-----|-----|----|------|------|----------|----------|
| 1     | KY1区F4 | 第12回  | 10.3 | —   | —   | —  |      |      |          | 弥生十王式    |
| 2     | NN50   | 第12回  | 8.7  | 7.0 | 8.4 | —  | ミガキ  | ミガキ  |          | 土師質器 小形壺 |
| 3     | KY34   | 第12回  | —    | —   | —   | —  | ケズリ  | ハケメ  |          | 土師器壺     |
| 4     | AZ3    | 第12回  | 14.2 | 4.2 | 7.2 | —  |      |      | 回転糸切り    | 須恵器壺     |
| 5     | KY1    | 第12回  | —    | —   | —   | —  | カキメ  |      |          | 須恵器壺     |
| 6     | KY1JF2 | 第12回  | —    | —   | —   | —  |      |      |          | 須恵器壺     |

第2表 米沢城南三の丸跡(1999)瓦器質土器観察表

| 遺物No. | 出土地区    | 検出No. | 口 | 径    | 身 | 高         | 底 | 径    | 備考            |
|-------|---------|-------|---|------|---|-----------|---|------|---------------|
| 11    | KY1     | 第13回  | — | 41.4 | — | —         | — | —    | 瓦器 手挽         |
| 12    | KY1DKF1 | 第13回  | — | 46.0 | — | —         | — | —    | 瓦器 手挽         |
| 13    | KY1CKF1 | 第13回  | — | —    | — | 27.4      | — | —    | 瓦器 手挽         |
| 14    | KY1DKF1 | 第13回  | — | 25.4 | — | —         | — | —    | 瓦器 手挽         |
| 15    | KY1F2   | 第13回  | — | —    | — | —         | — | —    | 瓦器 手挽         |
| 22    | KY1G区   | 第14回  | — | 21.2 | — | —         | — | —    | 跨釜            |
| 23    | DY15F1  | 第14回  | — | 29.0 | — | —         | — | —    | 土壙(内耳取手?)     |
| 24    | KY4F1   | 第14回  | — | 20.4 | — | —         | — | —    | 壠             |
| 25    | KY1     | 第14回  | — | 22.6 | — | —         | — | —    | 壠             |
| 126   | KY11KF2 | 第26回  | — | 26.4 | — | 11.2~12.8 | — | 11.6 | 擂鉢 近世初期       |
| 127   | KY1JFK3 | 第26回  | — | 25.6 | — | 13.0      | — | 11.2 | 擂鉢(戸長出?) 近世初期 |
| 128   | KY1     | 第26回  | — | 26.6 | — | 13.0      | — | 11.0 | 擂鉢 近世         |
| 129   | KY1     | 第26回  | — | 33.2 | — | 18.2      | — | 7.0  | 擂鉢 近世         |
| 130   | KY4EKF3 | 第26回  | — | 35.4 | — | 21.0      | — | 14.4 | 擂鉢 近世         |
| 131   | KY1JFK2 | 第27回  | — | 32.6 | — | 17.6      | — | 12.4 | 擂鉢 近世         |
| 132   | KY1G区   | 第27回  | — | 30.4 | — | 19.0      | — | 11.4 | 擂鉢 近世         |
| 133   | KY4DKF4 | 第27回  | — | 32.6 | — | 18.0      | — | 13.4 | 擂鉢 近世         |
| 134   | KY1JFK2 | 第27回  | — | 33.6 | — | 19.6      | — | 12.6 | 擂鉢 近世         |
| 135   | KY1     | 第27回  | — | 35.4 | — | 20.0      | — | 12.8 | 擂鉢 近世         |
| 16    | KY1OK区  | 第13回  | — | 14.6 | — | —         | — | —    | 杓立て           |
| 18    | KY1     | 第13回  | — | —    | — | —         | — | 13.0 | 杓立て           |
| 20    | KY4F2   | 第13回  | — | 8.7  | — | —         | — | —    | 小型壺           |
| 21    | KY6F7   | 第13回  | — | —    | — | —         | — | —    | 小型壺           |
| 19    | KY1EKF1 | 第13回  | — | 15.0 | — | 4.0       | — | 15.6 | 不明(サヤ?)       |

第3表 米沢城南三の丸跡(1999)陶磁器観察表

| 遺物No. | 出土地区    | 検出No. | 口 | 径    | 身 | 高    | 底 | 径    | 備考     |
|-------|---------|-------|---|------|---|------|---|------|--------|
| 46    | DY15F1  | 第16回  | — | —    | — | —    | — | —    | 碗 志野   |
| 50    | KY1SKF2 | 第16回  | — | —    | — | 4.7  | — | —    | 碗 緑釉   |
| 51    | KY2C区   | 第16回  | — | —    | — | —    | — | 5.7  | 碗 美濃系  |
| 52    | KY1JFK2 | 第16回  | — | —    | — | —    | — | 7.7  | 碗 美濃系  |
| 54    | DY12    | 第16回  | — | 12.6 | — | —    | — | —    | 碗 大振相馬 |
| 56    | KY1JFK3 | 第17回  | — | 10.9 | — | 5.7  | — | 4.5  | 碗      |
| 47    | KY1SKF2 | 第16回  | — | —    | — | —    | — | 9.4  | 皿      |
| 48    | KY1SKF2 | 第16回  | — | —    | — | —    | — | 14.6 | 皿 志野   |
| 49    | KY1SKF2 | 第16回  | — | —    | — | —    | — | 6.6  | 皿 志野   |
| 53    | KY1SKF2 | 第16回  | — | —    | — | —    | — | 6.3  | 皿 美濃系  |
| 64    | KY4DKF2 | 第17回  | — | 14.6 | — | 3.7  | — | 8.8  | 皿      |
| 45    | KY1SKF2 | 第16回  | — | —    | — | —    | — | —    | 鉢 緑釉   |
| 57    | KY1JFK3 | 第17回  | — | 14.2 | — | 4.7  | — | 6.4  | 鉢      |
| 58    | KY4DKF2 | 第17回  | — | 12.1 | — | —    | — | —    | 鉢      |
| 59    | DY14    | 第17回  | — | 16.5 | — | —    | — | —    | 鉢      |
| 60    | KY1     | 第17回  | — | 13.1 | — | 6.2  | — | 5.9  | 鉢      |
| 61    | KY1JFK2 | 第17回  | — | 14.8 | — | 9.8  | — | 9.3  | 鉢      |
| 62    | KY4EKF3 | 第17回  | — | 31.2 | — | 17.2 | — | 9.2  | 大鉢     |
| 63    | KY1     | 第17回  | — | 10.1 | — | —    | — | —    | 鉢      |
| 67    | KY1     | 第17回  | — | 19.0 | — | 9.0  | — | 8.4  | 片口     |
| 68    | KY1BKF2 | 第17回  | — | 18.4 | — | —    | — | —    | 片口     |
| 69    | KY4BKF3 | 第17回  | — | 21.4 | — | —    | — | —    | 片口     |
| 72    | DY15F1  | 第18回  | — | —    | — | —    | — | 11.2 | サヤ 戸長里 |
| 55    | KY1JFK3 | 第16回  | — | 8.3  | — | —    | — | —    | 蓋      |
| 71    | KY1JFK2 | 第18回  | — | 13.6 | — | —    | — | —    | 蓋 成島焼  |
| 74    | KY1SK   | 第18回  | — | 39.0 | — | —    | — | —    | 蓋      |
| 81    | KY4DKF4 | 第18回  | — | 25.6 | — | 28.6 | — | 12.6 | 蓋      |
| 82    | KY1OK区  | 第18回  | — | 8.8  | — | 11.6 | — | 7.4  | 小型蓋    |
| 65    | KY1EKF2 | 第17回  | — | 11.3 | — | —    | — | —    | 蓋      |
| 66    | KY1     | 第17回  | — | —    | — | —    | — | 10.7 | 行平蓋    |
| 70    | KY1JFK2 | 第18回  | — | 12.5 | — | 5.6  | — | 8.3  | 香炉 岸窓? |

| 遺物名 | 出土地区     | 揮因No. | 口径   | 器高   | 底径   | 備考      |
|-----|----------|-------|------|------|------|---------|
| 73  | KY1 G区   | 第18回  | 17.4 | —    | —    | 約たて 成島焼 |
| 75  | KY1 J区F3 | 第18回  | 17.2 | 20.0 | 13.0 | 約たて 成島焼 |
| 76  | KY4 F2   | 第18回  | —    | —    | 16.6 | 約たて     |
| 77  | KY1 I区   | 第18回  | —    | —    | 20.4 | 約たて     |
| 78  | KY4 D区F4 | 第18回  | 19.0 | 19.6 | 18.0 | 約たて     |
| 79  | KY1      | 第18回  | —    | —    | 22.0 | 約たて     |
| 80  | KY2 F2   | 第18回  | —    | —    | 20.6 | 約たて     |
| 83  | KY4 D区F4 | 第18回  | 2.8  | 16.8 | 20.0 | 瓶 相馬系   |

第4表 米沢城南三の丸跡（1999）染付陶磁器観察表

| 遺物名 | 出土地区     | 揮因No. | 口径   | 器高  | 底径  | 備考      |
|-----|----------|-------|------|-----|-----|---------|
| 84  | KY1 I区F2 | 第19回  | 6.8  | 5.0 | 3.1 | 碗       |
| 85  | KY1 G区F3 | 第19回  | 7.3  | 5.4 | 3.0 | 碗       |
| 86  | KY4 F2   | 第19回  | 8.1  | 5.2 | 3.2 | 碗       |
| 87  | KY1 J区F3 | 第19回  | 9.1  | —   | —   | 碗 伊万里系  |
| 88  | KY1 I区F3 | 第19回  | 9.5  | —   | —   | 碗       |
| 89  | KY2 F2   | 第19回  | —    | —   | —   | 碗       |
| 90  | KY1 I区F2 | 第19回  | —    | —   | 2.9 | 碗       |
| 91  | KY1 I区F2 | 第19回  | —    | —   | 3.1 | 碗       |
| 92  | KY2 F2   | 第20回  | —    | —   | 3.4 | 碗 伊万里系  |
| 93  | OY13 F4  | 第20回  | —    | —   | 3.4 | 碗       |
| 94  | KY1 I区F2 | 第20回  | —    | —   | 3.6 | 碗       |
| 95  | KY1 I区F3 | 第20回  | 8.6  | 5.6 | 3.5 | 碗       |
| 96  | KY1 J区F3 | 第20回  | 7.9  | 5.1 | 3.2 | 碗       |
| 97  | KY1      | 第20回  | 8.6  | 5.5 | 3.4 | 碗       |
| 98  | KY1 J区F3 | 第20回  | —    | —   | 4.8 | 碗       |
| 99  | KY1      | 第21回  | 11.4 | 5.8 | 4.5 | 碗       |
| 100 | KY1      | 第21回  | 10.1 | 6.1 | 4.3 | 碗       |
| 101 | KY1 D区   | 第21回  | 10.7 | —   | —   | 碗       |
| 102 | KY1      | 第21回  | —    | —   | 4.3 | 碗       |
| 103 | KY1      | 第21回  | —    | —   | 4.0 | 碗 伊万里   |
| 104 | KY1 J区F3 | 第21回  | 8.3  | 3.8 | 3.0 | 碗 伊万里   |
| 105 | KY1 I区F3 | 第22回  | 9.3  | 2.4 | 5.8 | 皿       |
| 106 | KY1 I区F3 | 第22回  | 9.4  | 2.4 | 5.5 | 皿       |
| 107 | KY1 J区F2 | 第22回  | 9.0  | 2.3 | 5.0 | 皿       |
| 108 | KY1      | 第22回  | 9.1  | 1.8 | 5.9 | 皿       |
| 109 | KY2 F2   | 第22回  | —    | —   | 5.7 | 皿       |
| 110 | KY1      | 第22回  | 11.4 | 2.4 | 6.6 | 皿       |
| 111 | DY15 F1  | 第22回  | 13.2 | 2.8 | 8.6 | 皿       |
| 112 | KY1      | 第22回  | 12.8 | 3.2 | 5.8 | 皿 伊万里系  |
| 113 | KY1      | 第23回  | —    | —   | 5.8 | 皿 伊万里   |
| 114 | KY1      | 第23回  | —    | —   | —   | 皿 伊万里   |
| 115 | KY1      | 第23回  | —    | —   | 6.1 | 皿       |
| 116 | KY1 F4   | 第23回  | 13.2 | 4.5 | 7.9 | 皿 伊万里   |
| 117 | KY1      | 第23回  | —    | —   | 8.4 | 皿 伊万里   |
| 118 | KY1      | 第23回  | —    | —   | 9.3 | 皿 伊万里系  |
| 119 | KY1 G区F3 | 第23回  | —    | —   | 8.7 | 皿 備前系   |
| 123 | KY1      | 第25回  | —    | —   | 8.6 | 皿       |
| 120 | KY1 J区F4 | 第24回  | —    | —   | 8.8 | 鉢       |
| 121 | KY1 I区F2 | 第24回  | 24.1 | —   | —   | 鉢       |
| 124 | KY1 E区F1 | 第25回  | —    | —   | 9.8 | 鉢       |
| 122 | KY1 I区   | 第25回  | 10.2 | 3.7 | 3.4 | 蓋 伊万里系  |
| 125 | KY2 G区F3 | 第25回  | —    | —   | 4.1 | 瓶子 伊万里系 |

第5表 米沢城南三の丸跡（1999）その他陶磁器観察表

| 遺物名 | 出土地区     | 揮因No. | 口径   | 器高  | 底径  | 備考       |
|-----|----------|-------|------|-----|-----|----------|
| 136 | KY1      | 第28回  | 7.7  | 6.6 | 6.5 | 急須       |
| 137 | KY1 E区F2 | 第28回  | —    | —   | 7.5 | 急須       |
| 138 | KY1      | 第28回  | —    | —   | 7.2 | 急須       |
| 139 | NN50     | 第28回  | —    | —   | 3.2 | 小型壺      |
| 140 | KY4 F2   | 第28回  | 13.5 | 9.5 | 2.9 | おろし皿     |
| 141 | KY1      | 第28回  | 6.8  | 2.3 | —   | 用途不明     |
| 142 | KY1      | 第28回  | —    | —   | —   | 土製人形     |
| 143 | KY1 I区F2 | 第28回  | —    | —   | —   | 水滴       |
| 144 | KY1 J区F2 | 第28回  | —    | —   | —   | 脚部（器種不明） |

第6表 米沢城南三の丸跡（1999）火具観察表

| 遺物名 | 出土地区     | 揮因No. | 口径   | 器高 | 底径 | 備考    |
|-----|----------|-------|------|----|----|-------|
| 17  | KY1 J区F2 | 第13回  | 13.0 | —  | —  | 火消壺か？ |

| 遺物No. | 出土地区     | 種図No. | 口径        | 器高   | 底径   | 備考          |
|-------|----------|-------|-----------|------|------|-------------|
| 26    | KY 1     | 第14図  | —         | —    | —    | 器台形土製品      |
| 145   | KY 1     | 第28図  | 27.0      | 7.6  | 23.4 | 器台形土製品 近世以降 |
| 146   | KY 1 D区  | 第28図  | 32.0      | 6.8  | 27.6 | 器台形土製品 近世以降 |
| 147   | NN50     | 第28図  | 28.0      | 8.8  | 23.0 | 器台形土製品 近世以降 |
| 148   | KY 1 G区  | 第29図  | 15.6      | 16.7 | 13.7 | 便炉          |
| 149   | KY 4 F 1 | 第29図  | 8.3       | 1.6  | —    | 目皿          |
| 150   | KY 4 F 2 | 第29図  | 26.0      | 5.8  | —    | 火消し蓋蓋       |
| 151   | KY 1     | 第29図  | 22.8×23.4 | 22.2 | 21.4 | 鍋物焼炉        |
| 152   | KY 1     | 第29図  | 25.4      | 23.6 | 23.4 | 火鉢 中世後半?    |
| 153   | KY 1     | 第29図  | —         | —    | —    | 火鉢 近世以降     |

第7表 米沢城南三の丸跡（1999）埴堀觀察表

| 遺物No. | 出土地区     | 種図No. | 口径   | 器高  | 底径 | 備考 |
|-------|----------|-------|------|-----|----|----|
| 27    | OY13F 4  | 第14図  | 7.4  | 2.8 | —  | 堆塙 |
| 28    | KY 1     | 第14図  | 6.2  | 2.1 | —  | 堆塙 |
| 29    | KY 1     | 第14図  | 6.9  | 2.2 | —  | 堆塙 |
| 30    | KY 1 F 2 | 第14図  | 8.0  | 2.7 | —  | 堆塙 |
| 31    | KY 1     | 第14図  | 9.8  | 2.7 | —  | 堆塙 |
| 32    | KY 4 F 3 | 第14図  | 16.4 | —   | —  | 堆塙 |

第8表 米沢城南三の丸跡（1999）かわらけ觀察表

| 遺物No. | 出土地区       | 種図No. | 口径   | 器高  | 底径   | 備考          |
|-------|------------|-------|------|-----|------|-------------|
| 7     | KY 1 I区F 4 | 第12図  | 18.8 | 3.2 | 11.4 | かわらけ内外面黒色処理 |
| 8     | KY 1 J区F 4 | 第12図  | 14.6 | 3.6 | 7.7  | かわらけ内面黒色処理  |
| 9     | KY 1 J区F 4 | 第12図  | 13.6 | 3.0 | 6.7  | かわらけ        |
| 10    | DY15       | 第12図  | 16.8 | 3.7 | 10.2 | かわらけ        |
| 33    | KY 1 D区    | 第15図  | 9.0  | 2.0 | 3.5  | かわらけ        |
| 34    | KY 1       | 第15図  | 11.0 | —   | —    | かわらけ        |
| 35    | KY 2 G区F 4 | 第15図  | 12.5 | —   | —    | かわらけ        |
| 36    | KY 1 I区F 4 | 第15図  | —    | —   | 4.3  | かわらけ        |
| 37    | KY 2 G区F 4 | 第15図  | 12.4 | —   | —    | かわらけ        |
| 38    | KY 1       | 第15図  | 13.0 | —   | —    | かわらけ        |
| 39    | KY 1 J区F 3 | 第15図  | 12.7 | —   | —    | かわらけ        |
| 40    | KY 1 J区F 2 | 第15図  | 14.3 | —   | —    | かわらけ        |
| 41    | KY 1 I区F 4 | 第15図  | 13.0 | —   | —    | かわらけ        |
| 42    | KY 1 I区    | 第15図  | —    | —   | 4.2  | かわらけ        |
| 43    | KY 1 I区F 3 | 第15図  | —    | —   | 6.1  | かわらけ        |
| 44    | KY 1 S区F 2 | 第15図  | —    | —   | 7.1  | かわらけ        |

第9表 米沢城南三の丸跡（1999）木製品觀察表

| 遺物No. | 出土地区       | 種図No. | 口径(長さ) | 器高(幅) | 底径(厚さ) | 備考         |
|-------|------------|-------|--------|-------|--------|------------|
| 154   | KY 1 I区F 2 | 第30図  | (9.0)  | (2.2) | (4.2)  | 椀 内面朱・外面黒漆 |
| 155   | KY 1 I区F 1 | 第30図  | (5.6)  | (5.0) | 5.4    | 椀 内面朱・外面黒漆 |
| 156   | KY 1 D区F 2 | 第30図  | (11.5) | (4.5) | 5.4    | 椀 内面朱・外面黒漆 |
| 157   | KY 1 J区F 3 | 第30図  | (12.2) | (6.7) | 6.0    | 椀 内外面黒漆    |
| 158   | KY 1 T区F 3 | 第30図  | (11.0) | (4.8) | 5.8    | 椀 内面朱・外面黒漆 |
| 159   | KY 1 I区F 1 | 第30図  | (10.0) | (6.5) | 5.0    | 椀 内面朱・外面黒漆 |
| 160   | KY 1 J区F 2 | 第30図  | (10.0) | (5.2) | 5.0    | 椀 内面朱・外面黒漆 |
| 161   | KY 1 J区F 2 | 第30図  | (9.0)  | (4.1) | 3.2    | 椀 内外面部朱漆   |
| 162   | KY 1 I区F 2 | 第30図  | 12.0   | (4.7) | (5.3)  | 椀 内外面朱漆    |
| 163   | KY 1 I区F 1 | 第30図  | (12.2) | (5.8) | (6.2)  | 椀 内外面朱漆    |
| 164   | KY 1 I区F 2 | 第30図  | (11.8) | (5.3) | (5.4)  | 椀 内外面朱漆    |
| 165   | KY 1 J区F 3 | 第30図  | (13.2) | (2.3) | 5.9    | 椀 内外面黒漆    |
| 166   | KY 1 J区F 3 | 第30図  | (9.8)  | (1.9) | 5.0    | 椀          |
| 167   | KY 1 J区F 3 | 第30図  | 14.2   | 1.5   | 5.5    | 皿          |
| 168   | KY 1       | 第31図  | 4.0    | 1.1   | —      | 曲物底板       |
| 169   | KY 1 J区F 3 | 第31図  | 5.3    | 0.4   | —      | 曲物底板       |
| 170   | KY 1 J区F 3 | 第31図  | 5.7    | 0.4   | —      | 曲物蓋(桜皮付)   |
| 171   | KY 4 D区F 3 | 第31図  | 7.4    | 0.6   | —      | 曲物底板       |
| 172   | KY 1       | 第31図  | 12.1   | 0.7   | —      | 曲物底板       |
| 173   | KY 4 D区F 3 | 第31図  | 10.7   | 0.4   | —      | 曲物底板       |
| 174   | KY 4 D区F 3 | 第31図  | 11.0   | 0.5   | —      | 曲物底板       |
| 175   | KY 2       | 第31図  | 10.2   | 0.8   | —      | 曲物底板       |
| 176   | KY 1 J区F 3 | 第31図  | 10.1   | 0.5   | —      | 曲物底板       |
| 177   | KY 4 D区F 3 | 第31図  | (13.3) | 0.4   | —      | 曲物底板       |
| 178   | KY 1       | 第31図  | 15.6   | 0.4   | —      | 曲物底板       |
| 179   | KY 1 I区F 3 | 第31図  | 16.5   | 0.7   | —      | 曲物底板       |
| 180   | KY 1       | 第31図  | 9.4    | 2.5   | —      | 不明         |

| 遺物No. | 出土地区    | 標印No. | 口径(径さ) | 器高(高さ) | 底径(厚さ) | 備考    |
|-------|---------|-------|--------|--------|--------|-------|
| 181   | KY1     | 第31回  | 10.3   | 1.1    | —      | 不明    |
| 182   | KY2     | 第32回  | 12.3   | 4.6    | 0.7    | 不明    |
| 183   | KY1J区F3 | 第32回  | 12.9   | 6.4    | 0.7    | 不明    |
| 184   | KY1     | 第32回  | 6.2    | 9.1    | 1.8    | 董     |
| 185   | KY1I区F3 | 第32回  | 4.0    | 11.4   | 1.0    | 横櫛    |
| 186   | KY1J区F4 | 第32回  | 19.1   | 3.5    | 2.3    | 横櫛木製品 |
| 187   | KY1J区F4 | 第32回  | 24.8   | 3.9    | 3.5    | 楕円木製品 |
| 188   | KY1J区F2 | 第32回  | 9.1    | 5.5    | 9.6    | 竹器    |
| 189   | KY4D区F3 | 第32回  | 16.5   | 8.7    | 2.7    | 下駄    |
| 190   | KY4D区F3 | 第32回  | 19.4   | 10.1   | 2.2    | 下駄    |
| 191   | KY1     | 第32回  | 22.0   | 11.5   | 7.0    | 下駄    |
| 192   | KY2     | 第32回  | 22.6   | 11.8   | 3.0    | 機織機部材 |
| 193   | KY1J区F4 | 第32回  | 16.5   | 11.2   | 0.5    | 不明    |
| 194   | KY1     | 第33回  | 89.0   | 9.6    | —      | 杭     |
| 195   | KY1     | 第33回  | 80.6   | 7.6    | —      | 杭     |
| 196   | KY1     | 第33回  | 75.8   | 9.8    | —      | 杭     |

第10表 米沢城南三の丸跡（1999）石製品観察表

| 遺物No. | 出土地区    | 標印No. | 口 径 | 器 高 | 底 径 | 備 考    |
|-------|---------|-------|-----|-----|-----|--------|
| 197   | KY1G底面  | 第34回  | —   | 1.9 | —   | 小形壺    |
| 198   | KY1J区F3 | 第34回  | —   | 0.9 | —   | 円盤状石製品 |
| 199   | KY1S区F2 | 第34回  | —   | 1.5 | —   | 根付     |
| 200   | KY1     | 第34回  | —   | —   | —   | 円盤状石製品 |
| 201   | KY4F3   | 第34回  | —   | 2.2 | —   | 不明     |
| 202   | KY1     | 第34回  | —   | —   | —   | 石臼     |
| 203   | KY1F2   | 第34回  | —   | —   | —   | 石 五輪塔  |

第11表 米沢城南三の丸跡（1999）鉄製品（古銭）観察表

| 遺物No. | 出土地区      | 標印No. | 径    | 厚さ   | 底径 | 備考          |
|-------|-----------|-------|------|------|----|-------------|
| 204   | KY1       | 第35回  | 2.4  | 0.15 | —  | 永楽通宝（1408～） |
| 205   | KY1       | 第35回  | 2.4  | 0.1  | —  | 永楽通宝        |
| 206   | KY1T区F3   | 第35回  | 2.45 | 0.15 | —  | 永楽通宝        |
| 207   | KY3F2     | 第35回  | 2.5  | 0.15 | —  | 永楽通宝        |
| 208   | OY13F1    | 第35回  | 2.35 | 0.07 | —  | 永楽通宝        |
| 209   | OY13F3    | 第35回  | 2.3  | 0.08 | —  | 永楽通宝        |
| 210   | KY1F1     | 第35回  | 2.1  | 0.1  | —  | 寛永通宝（1636～） |
| 211   | KY1F1     | 第35回  | 2.8  | 0.15 | —  | 寛永通宝        |
| 212   | KY1F3     | 第35回  | 2.4  | 0.1  | —  | 寛永通宝        |
| 213   | KY1J区F4   | 第35回  | 2.4  | 0.1  | —  | 寛永通宝        |
| 214   | KY1J区F3   | 第35回  | 2.45 | 0.15 | —  | 寛永通宝        |
| 215   | KY1J区F3   | 第35回  | 2.45 | 0.1  | —  | 寛永通宝        |
| 216   | KY1S区F1   | 第35回  | 2.45 | 0.1  | —  | 寛永通宝        |
| 217   | KY1T区F2   | 第35回  | 2.45 | 0.1  | —  | 寛永通宝        |
| 218   | KY1T区F2   | 第35回  | 2.5  | 0.15 | —  | 寛永通宝        |
| 219   | KY1T区F2   | 第35回  | 2.45 | 0.15 | —  | 寛永通宝        |
| 220   | KY1TKF2   | 第35回  | 2.4  | 0.1  | —  | 寛永通宝        |
| 221   | KY1TKDZ-5 | 第35回  | 2.45 | 0.1  | —  | 寛永通宝        |
| 222   | KY1TKDZ-5 | 第35回  | 2.4  | 0.15 | —  | 寛永通宝        |
| 223   | KY1TKDZ-5 | 第35回  | 2.4  | 0.1  | —  | 寛永通宝        |
| 224   | KY1TKDZ-5 | 第35回  | 2.4  | 0.15 | —  | 寛永通宝        |
| 225   | KY1TKDZ-5 | 第35回  | 2.4  | 0.1  | —  | 寛永通宝        |
| 226   | KY1TKDZ-5 | 第35回  | 2.35 | 0.1  | —  | 寛永通宝        |
| 227   | KY2F区F2   | 第35回  | 2.35 | 0.15 | —  | 寛永通宝        |
| 228   | KY2F区F3   | 第35回  | 2.35 | 0.1  | —  | 寛永通宝        |
| 229   | KY4F1     | 第35回  | 2.35 | 0.1  | —  | 寛永通宝        |
| 230   | NN50      | 第35回  | 2.3  | 0.1  | —  | 寛永通宝        |
| 231   | KY1I区F3   | 第35回  | 2.3  | 0.1  | —  | 一錢（1922）    |
| 232   | KY1I区     | 第35回  | 2.3  | 0.1  | —  | 一錢（1920）    |

第12表 米沢城南三の丸跡（2000）土器類観察表

| 遺物No. | 出土地区 | 標印No. | 口 径 | 器 高 | 底 径 | 備 考  |
|-------|------|-------|-----|-----|-----|------|
| 233   | KY1  | 第36回  | —   | —   | —   | 土師器壺 |

第13表 米沢城南三の丸跡（2000）瓦器質土器観察表

| 遺物No. | 出土地区 | 標印No. | 口 径  | 器 高 | 底 径 | 備 考 |
|-------|------|-------|------|-----|-----|-----|
| 234   | KY1  | 第36回  | 24.2 | —   | —   | 土壙  |

第14表 米沢城南三の丸跡（2000）陶磁器観察表

| 遺物No. | 出 土 地 区 | 埋団No. | 口 径  | 器 高 | 底 径 | 備 考   |
|-------|---------|-------|------|-----|-----|-------|
| 243   | K Y34   | 第37回  | 11.1 | 6.8 | 5.4 | 碗     |
| 239   | K Y34   | 第37回  | 7.9  | 2.5 | 3.6 | 皿     |
| 240   | K Y34   | 第37回  | 8.2  | 2.2 | 3.9 | 皿     |
| 241   | K Y34   | 第37回  | 11.2 | 2.5 | 6.6 | 皿     |
| 242   | K Y34   | 第37回  | 9.4  | 2.2 | 4.8 | 皿     |
| 244   | K Y34   | 第37回  | —    | —   | 5.4 | 皿     |
| 245   | X O     | 第37回  | 9.8  | 3.0 | 3.7 | 皿 岸窓  |
| 246   | X O     | 第37回  | 11.3 | 2.8 | 4.5 | 皿 岸窓  |
| 233   | K Y34   | 第36回  | 19.4 | —   | —   | 鉢     |
| 236   | K Y34   | 第36回  | 19.0 | —   | —   | 鉢     |
| 247   | K Y34   | 第37回  | 17.3 | 8.9 | 7.0 | 鉢     |
| 248   | K Y34   | 第37回  | 21.1 | —   | —   | 鉢     |
| 237   | K Y34   | 第36回  | 21.2 | —   | —   | 麦     |
| 238   | K Y34   | 第36回  | 29.4 | —   | —   | 麦 島島系 |

第15表 米沢城南三の丸跡（2000）染付陶磁器観察表

| 遺物No. | 出 土 地 区 | 埋団No. | 口 径  | 器 高 | 底 径  | 備 考    |
|-------|---------|-------|------|-----|------|--------|
| 249   | X O     | 第38回  | 6.4  | 4.8 | 2.9  | 碗      |
| 250   | K Y34   | 第38回  | 6.3  | 4.3 | 2.9  | 碗      |
| 251   | K Y34   | 第38回  | 6.5  | 4.1 | 2.8  | 碗      |
| 252   | K Y34   | 第38回  | 7.3  | —   | —    | 碗      |
| 253   | K Y34   | 第38回  | 7.3  | —   | —    | 碗      |
| 254   | K Y34   | 第38回  | —    | —   | 3.2  | 碗      |
| 255   | K Y56   | 第38回  | —    | —   | 2.8  | 碗      |
| 256   | K Y34   | 第38回  | —    | —   | 3.7  | 碗 伊万里系 |
| 257   | K Y34   | 第38回  | 10.5 | 5.7 | 3.8  | 碗      |
| 258   | K Y34   | 第38回  | —    | —   | 3.6  | 碗      |
| 259   | K Y34   | 第38回  | 10.9 | 5.9 | 3.8  | 碗      |
| 260   | K Y34   | 第39回  | 6.5  | 4.2 | 2.8  | 碗      |
| 262   | K Y34   | 第39回  | —    | —   | 3.7  | 碗      |
| 263   | K Y34   | 第39回  | 11.5 | 5.7 | 3.7  | 碗      |
| 265   | K Y34   | 第39回  | —    | —   | 3.6  | 碗      |
| 267   | K Y34   | 第39回  | 10.7 | —   | —    | 碗      |
| 261   | K Y34   | 第39回  | 8.2  | 2.2 | 4.2  | 皿      |
| 271   | K Y34   | 第40回  | 13.4 | 3.4 | 8.1  | 皿      |
| 272   | K Y34   | 第40回  | 13.4 | 3.6 | 8.3  | 皿      |
| 273   | K Y34   | 第40回  | 12.0 | 3.5 | 6.7  | 皿      |
| 274   | K Y34   | 第40回  | 12.6 | 3.0 | 7.3  | 皿      |
| 275   | K Y34   | 第41回  | 10.5 | 2.8 | 5.4  | 皿      |
| 276   | K Y34   | 第41回  | —    | —   | 7.2  | 皿      |
| 277   | K Y34   | 第41回  | —    | —   | 4.7  | 皿      |
| 278   | K Y34   | 第41回  | 11.8 | 2.5 | 6.4  | 皿      |
| 279   | K Y34   | 第41回  | 14.9 | 4.2 | 7.9  | 皿      |
| 280   | K Y34   | 第42回  | 16.4 | 7.6 | 8.9  | 鉢      |
| 281   | K Y34   | 第43回  | 17.4 | 6.2 | 8.5  | 鉢      |
| 286   | K Y34   | 第44回  | 13.4 | 5.0 | 13.7 | 鉢      |
| 264   | K Y56   | 第39回  | —    | —   | 2.0  | 供牌瓶    |
| 266   | K Y34   | 第39回  | —    | —   | 6.9  | 德利     |
| 268   | K Y34   | 第39回  | —    | —   | 6.0  | 德利     |
| 269   | K Y34   | 第39回  | —    | —   | 7.0  | 德利     |
| 270   | K Y34   | 第39回  | —    | —   | 6.9  | 德利     |
| 282   | K Y34   | 第44回  | 7.4  | 2.1 | 6.2  | 小型蓋    |
| 283   | K Y34   | 第44回  | 7.7  | 1.5 | 6.7  | 小型蓋    |
| 284   | K Y34   | 第44回  | 12.3 | 3.4 | 11.0 | 蓋      |
| 285   | K Y34   | 第44回  | 14.7 | —   | 12.3 | 蓋 伊万里系 |

## IV まとめ

今回の調査で検出された遺構は、堀・溝跡、土壌、柱穴等があり、平成11年度は二の丸堀跡以外の殆んどが近世以降に構築された遺構である。堀跡外の溝跡、土壌、柱穴等からの出土遺物はごく僅かであった。平成12年度はK Y34からの出土遺物が多い。

出土した遺物には、土器類・瓦器質土器・陶磁器・染付陶磁器・その他陶磁器・火具・培塿・かわらけ・木製品石製品・鉄製品・ガラス製品等があるが、中世に属する遺物は少なく、近世以降から近代にかけての製品が多い。僅かであるが、古代の遺物も若干含まれることから、隣接する箇所には古代の遺跡も存在する可能性がある。

米沢城の築城は、記録によるかぎり、天正19年（1591）年の蒲生氏郷によって築かれたものと考えられる。上杉氏が慶長6年（1601）11月に入部すると、二の丸跡の普請を行ったとされることから、当初は単廓式の平城であった可能性が高い。その後、上杉氏は慶長13年（1608）に至るまでに門・堀・櫓・掘立川・町並み等の整備を次々に行い、次第に城下町の姿が整えられてきた。米沢城の形態については、現存する絵図面で当時の様子を知ることができる。

さて、絵図面で照合すると、平成11年度に調査した米沢城跡南東部、南堀端町の道路及び南北の丸堀跡に当たる場所で、道路と堀の一部が検出されている。ところが、絵図面では、二の丸堀跡が南堀端町に沿って直線に延びているのに対し、今回の調査によって、東二の丸に折れ、約70m手前（西側）で北側にカーブすることが判った。

絵図面は、幕府の命で提出させられた公図であり、幕府に提出する正図と藩の控えとなる副図を作成したものであり、今日残る城下絵図の大半は、藩控えの副図であると考えられる。絵図の作成は、外様大名等の勝手な城の普請を規制し、城内部を未然に把握する狙いがあり、新たな普請に対しても厳しい制約が設けられ、それに反すると罰則や廃藩にも及ぶ厳しいものがあったと云われている。今回の調査で検出された堀跡は、明らかに絵図面とは異なる形態を示すものである。

絵図面と異なり北側に折れた空間（曲輪）が、米沢城にとってどのような意味をもつものかは明確にできない。しかし、現存する「御城下絵図」は、上杉文書には15枚ほど知られているが、全ての絵図において直線状に描かれていることは、一時的な普請で改築したものではなく、当初から北側に存在した曲輪を意図的に無視した絵図となり、興味深い事例といえよう。

### 参考文献

- 1987 「伊達と米沢」・「米沢の町人まち」 小野 荘
- 1992 「絵図で見る城下町米沢」 朝倉有子・青木昭博・角谷由美子（米沢市立上杉博物館特別展図録）
- 1992 「快風17号」 手塚 孝（御堀端史跡保存会）
- 1997 「米沢市史 中世編」 米沢市史編纂委員会
- 1999 「米沢城東二の丸跡発掘調査報告書（米沢市埋蔵文化財調査報告書 第68集）」 菊地政信

# 報告書抄録

|        |   |
|--------|---|
| ふりがな   | 上ねざわじょうみなみさんのまるあと                           |
| 書名     | 米沢城南三の丸跡                                    |
| 副書名    |   |
| 卷次     |   |
| シリーズ名  | 米沢市埋蔵文化財調査報告書                               |
| シリーズ番号 | 第76集  |
| 編著者名   | 月山隆弘  |
| 編集機関   | 米沢市教育委員会                                    |
| 所在地    | 〒992-0012 山形県米沢市金池三丁目1-55号 TEL(0238)22-5111 |
| 発行年月日  | 平成14年3月31日                                  |

| 所収遺跡名                                 | 所在地   | コード  | 北緯                        | 東経                       | 調査機関   | 調査面積              | 調査原因   |
|---------------------------------------|---|------|---------------------------|--------------------------|--|-------------------|--------|
|                                       |   | 市町村  |                           |                          |  |                   |        |
| 上ねざわじょう<br>米沢城<br>みなみさんのまるあと<br>南三の丸跡 | やまとだけん上ねざわし<br>山形県米沢市<br>まる うちいっちょうどめ<br>丸の内一丁目 | 6202 | 北緯<br>37度<br>54分<br>N-543 | 東経<br>140度<br>06分<br>45秒 | 19990823<br>19991029<br>20000723<br>20000811 | 880m <sup>2</sup> | 市道拡幅工事 |

| 所収遺跡名        | 種別  | 主な時代 | 主な遺構            | 主な遺物                      | 特記事項                        |
|--------------|-----|------|-----------------|---------------------------|-----------------------------|
| 米沢城<br>南三の丸跡 | 城館跡 | 中近世  | 堀・溝跡・土塙・柱穴・池状遺構 | 土師質土器・陶磁器<br>木製品・石製品・金属製品 | 二の丸堀跡が絵図<br>面と形態が異なつて確認された。 |

# 写 真 図 版

第一図版  
米沢城南三の丸跡検出遺構



調査全景1999（西から）



M調査区付近1999（西から）



G調査区付近1999（東から）



K調査区付近1999（西から）



I調査区付近1999（西から）



K Y 1 堀跡コーナー部1999（西から）



C調査区付近1999（西から）



K Y 1 堀跡コーナー部1999（東から）

第二図版  
米沢城南三の丸跡検出遺構他



S X 50池状遺構 1999 (西から)



漆器出土状況 1999 (南から)



須恵器出土状況 1999 (南東から)



A調査区全景 2000 (西から)



B調査区全景 2000 (東から)

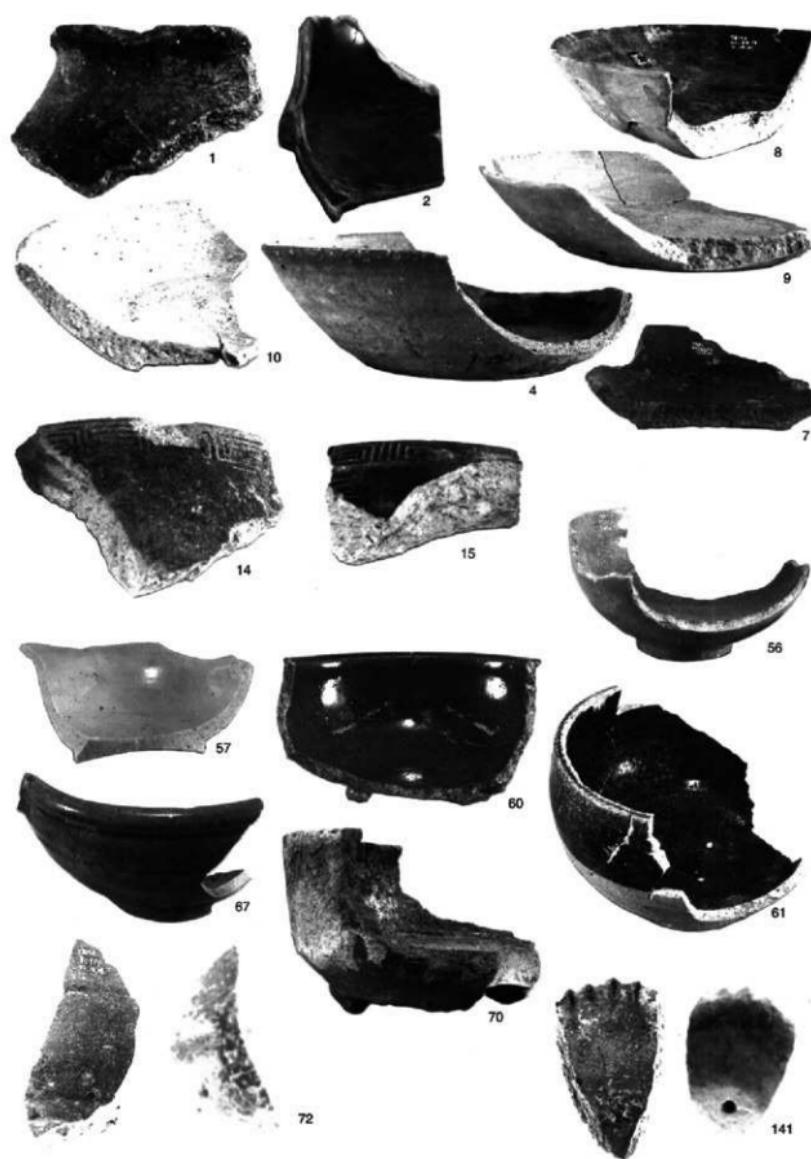


C調査区全景 2000 (西から)

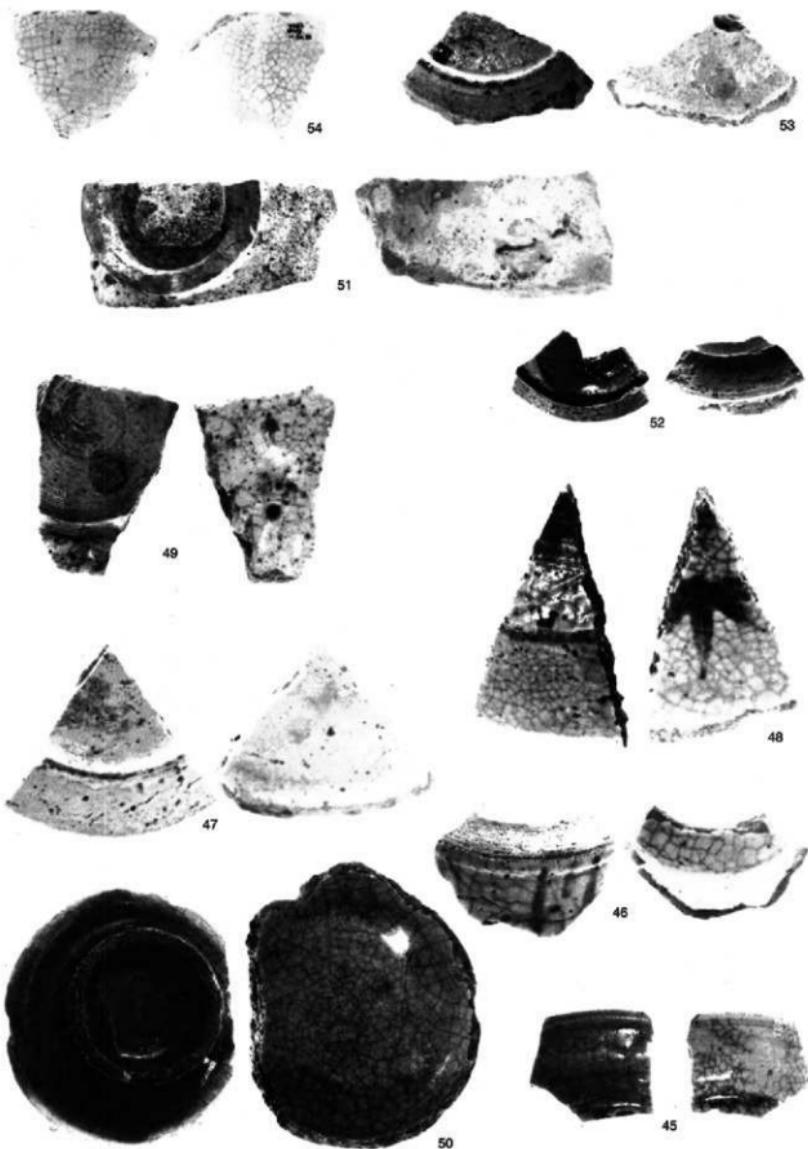


D調査区全景 2000 (東から)

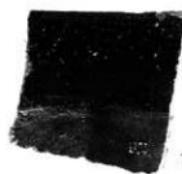
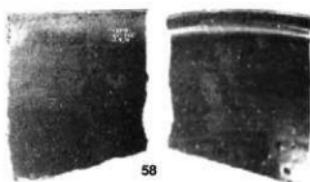
第三図版 米沢城南三の丸跡出土遺物(1)



第四図版  
米沢城南三の丸跡出土遺物(2)



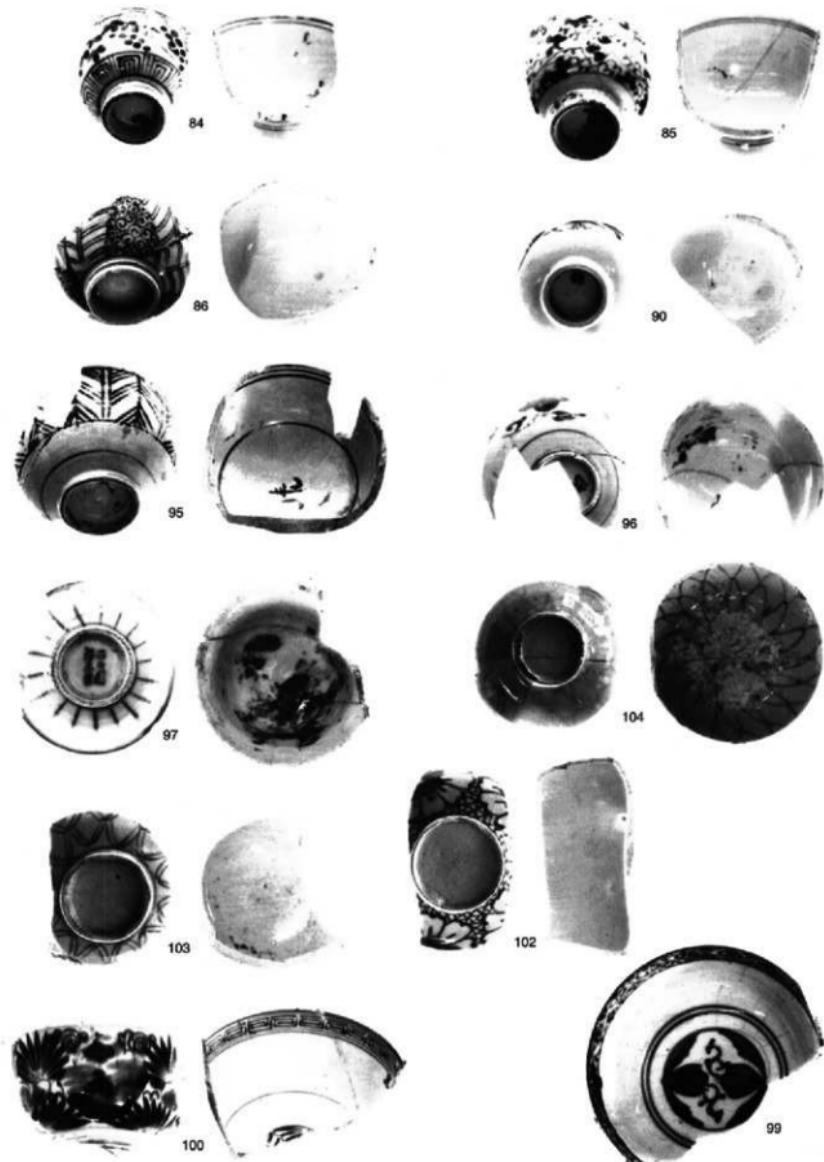
第五図版 米沢城南三の丸跡出土遺物(3)

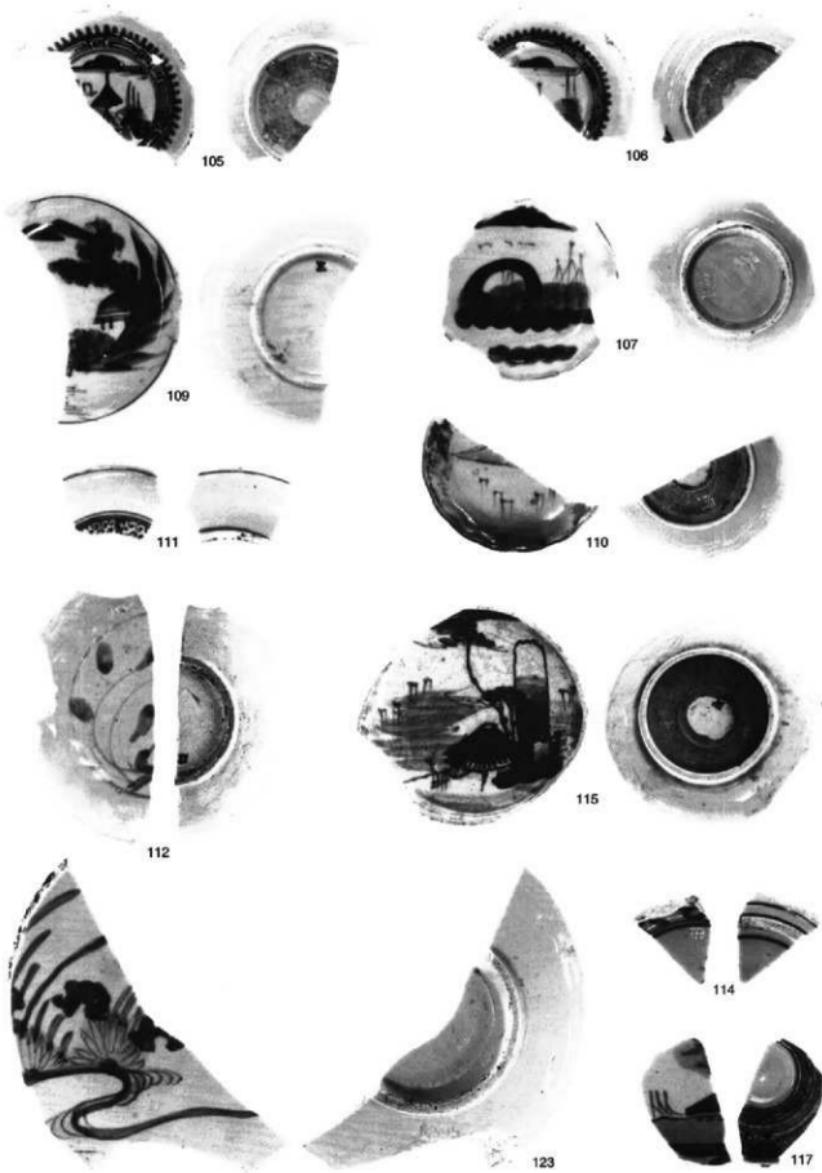


136



第六図版 米沢城南三の丸跡出土遺物(4)





第八図版  
米沢城南三の丸跡出土遺物(6)

